



UDC信州
信州地域デザインセンター

2023年度 活動報告書



信州地域デザインセンターとは？

設立の目的

長野県内の都市においても、人口減少に伴う都市のスポンジ化が進み都市機能の維持が困難になっていること、「コンパクト+ネットワーク（立地適正化計画）」、「ウォーカブルシティ」、「スマートシティ」等の概念が掲げられる中、社会情勢の変化や価値観の多様化等により、まちづくりの専門化、高度化、多様化が進む一方で、職員数や予算的な限界がある市町村単独では対応が困難であり、長野県のサポートに期待が寄せられていました。

このため、長野県が主体となって公・民・学が連携し市町村のまちづくりをサポートする広域型のまちづくり支援組織として、令和元(2019)年8月に信州地域デザインセンター（UDC信州）は設立されました。

UDC信州は、市町村が進めるまちづくりを支援する【支える】のほか、行政職員等を対象としたまちづくり人材の育成【育む】、県内外の情報を共有するための情報収集・情報発信【発信する】を行い、これらの活動を通じてまちづくりの「場」を生み出し、令和5(2023)年度から始まる長野県の新総合5か年計画「しあわせ信州創造プラン3.0」にもとづく「住む人も訪れる人も快適な空間づくり」の実現に向けた取組みを進めていきます。

理念と活動

3つの理念

連携により
新たな価値を創る

空間の質を向上する

未来を志向する

3つの活動

支える
まちづくり支援 

育む
セミナー等開催 

発信する
情報発信 

構成団体



拠点紹介

UDC信州の活動拠点は、長野市の善光寺の門前、中央通り沿いにある、およそ100年前に建てられた歴史ある古民家を、当時の風情を活かしながら明るい空間にリノベーションした建物の2階です。室内には、まちづくりに関する書籍やまちづくり団体の活動の資料などがあり、自由に閲覧することができます。



※スタッフ不在時は施錠されていますのでご注意ください。



信州地域デザインセンター
センター長

黒口 信

令和5年度は4年ぶりに声だし応援がさまざまな場面で再開され、訪日外国人数も2500万人を超えるなど社会経済活動が本格的に再開するなかで、UDC信州の活動もオンラインから現場でのやりとりと本来の活動を取り戻してきたところです。この度、今年度の取り組みをここに報告書としてまとめることができましたこと、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

今年度の活動実績として、3つの活動方針のうち「支える」では回遊性向上や公共空間の活用、ビジョン・エリアプラットフォーム作成、社会実験など県内20市町の20案件の取組みについて支援してまいりました。

活動方針2つめの「育む」では、「まちづくりセミナー」を4回開催し、フィールドワークを交えた社会実験の方法やウォークアブル施策に関する講演、先進地視察などを行いました。また、「市町村を支える広域型UDC」をメインテーマとして「全国UDC会議2023in信州」が長野県上田市で11月に開催されました。UDC信州は唯一の広域UDCであることから、複数市町村をまたぐ広域エリアでの取組みについて全国のUDC関係者に報告いたしました。また、しなの鉄道線沿線や諏訪湖周辺の連携について、UDC信州と市町村職員の意見交換を行い鉄道事業者などとともに広域のビジョン策定やビジョン実現のための取組みを考えました。個別の市町村まちづくりとの連携面についても課題とその解決策、工夫など具体的事例に基づき議論を進めて参りました。

活動方針3つめの「発信する」ではホームページやSNS、メールマガジンを用いて、県内外のまちづくりの動きとUDC信州の活動などを発信してまいりました。

開設から5年目に入り、支援内容もまちづくりの相談対応の段階から、具体のプロジェクトとそれを担う体制づくり、ビジョンの具現化に向けた社会実験の実施など次のステージに移りつつあります。UDC信州は、県内に住む人も訪れる人にとっても快適な空間がひろがることを目指して、これからも俯瞰的、広域的、そしてネットワークの視点を持ちながら、様々な方々と連携してまちづくり支援に取り組んでまいります。

関係者の方々に改めて感謝申し上げますとともに、今後とも引き続きのご協力、ご支援をお願い申し上げます。

信州地域デザインセンターとは？	
拠点紹介	1
センター長からごあいさつ	2
支える 活動報告・支援の状況（総括）	3 - 4
広域プロジェクト（PJ）	
しなの鉄道線沿線地域の回遊性向上PJ/ しなの鉄道線沿線地域	5 - 6
諏訪湖自転車活用まちづくりPJ/ 長野県・諏訪市・岡谷市・下諏訪町	7 - 8
レイクリゾート創造PJ/茅野市・立科町	9 - 10
個別プロジェクト（PJ）	
下諏訪グランドデザインPJ/下諏訪町	11 - 12
諏訪市未来PJ/諏訪市	13 - 14
千曲市総合運動公園基本構想PJ/千曲市	15
戸倉上山田温泉街活性化PJ/千曲市	16
小諸駅周辺魅力向上PJ/小諸市	17
空き地・空き家の利活用PJ/安曇野市	18
長野中心市街地まちなか再生PJ/長野市	19
旧城南中学校校利活用PJ/飯山市	20
主なPJのスケジュール・その他PJ	21 - 22
コラム①②	23 - 25
育む 活動報告	26
アーバンデザインセンター会議2023 in信州	27 - 28
まちづくりセミナー	29 - 30
先進地視察	31 - 32
学生とのまちづくり連携	33 - 34
発信する 活動報告	35
HP・SNS	36
おわりに	
UDC信州スタッフより	37 - 38

UDC 信州

支える
SUPPORT

支える

SUPPORT

【令和5（2023）年度 総括】

ここでは、UDC信州の活動方針のひとつ「支える」について、令和5（2023）年度に行った主な支援の取り組みを紹介します。

●広域支援エリア

広域支援とは、複数市町村と連携して進めているプロジェクトです。令和5年度は、「しなの鉄道線沿線地域の回遊性向上プロジェクト」「諏訪湖自転車活用まちづくりプロジェクト」「レイクリゾート創造プロジェクト」の3案件があります。

●個別支援エリア

個別支援とは、単独の市町村と進めているプロジェクトです。令和5年度は17案件があり、中心市街地再生、公共施設・公有地活用、観光地再生、ビジョン作成等、市町村から寄せられた様々なテーマのご相談に対し、広域的視点を持ってサポートを進めてきました。



- = 令和5（2023）年度の支援エリア
- = これまでの支援エリア
- = 広域支援エリア



令和5（2023）年度 支援実績

20

案件（20市町村）

【令和5（2023）年度 支援エリア】

しなの鉄道線沿線8自治体／
岡谷市・諏訪市・下諏訪町／茅野市・立科町／
小諸市／佐久穂町／上田市／岡谷市／
諏訪市2件／茅野市／下諏訪町／
伊那市／高森町／安曇野市／千曲市2件／
中野市／山ノ内町／飯山市／長野市

これまでの支援実績（上記含む）

59

案件（34市町村）

【これまでの支援エリア】

小諸市3件／軽井沢町3件／佐久市4件／御代田町2件／
佐久穂町2件／上田市6件／東御市5件／岡谷市3件／
諏訪市4件／茅野市3件／下諏訪町3件／富士見町／
伊那市3件／駒ヶ根市／箕輪町／飯田市／高森町／阿南町／
上松町／松本市2件／塩尻市／安曇野市／松川村／大町市／
白馬村／千曲市4件／坂城町2件／須坂市2件／小布施町／
中野市／山ノ内町／飯山市／長野市2件／信濃町
※重複があるため全体の案件数と合計は一致しません

これまでの支援内容

鉄道沿線の回遊性向上／スマートシティの検討／移住促進・土地活用／駅前広場の整備／
駅前広場の利活用／観光拠点の整備／観光地再生／空き家活用／景観計画の作成／
公園の利活用／公共施設・公有地活用／住民主体のまちづくり／
自転車活用・推進計画の実現／地域公共交通の検討／地方創生計画／
中心市街地再生（ビジョン・駅前・商店街）／まちなかの回遊性向上／
都市マス・立地適正化計画／都市計画道路の整備／道の駅整備

しなの鉄道線沿線地域の回遊性向上プロジェクト

しなの鉄道線沿線地域

プロジェクト概要

多くの観光客が訪れるしなの鉄道線沿線地域において「各地域に点在する魅力的な資源を多くの方に知ってもらうこと」「交通手段の選択肢を増やし、回遊性を向上させること」を目的に、沿線自治体、しなの鉄道、上田電鉄およびUDC信州で勉強会を設置し、沿線地域の将来像の検討や社会実験を行っています。

基本情報

市町村名／軽井沢町、御代田町、佐久市、小諸市、東御市、上田市、
坂城町、千曲市、長野市
人口（2024/3/1現在）／約700,000人（駅のある8市町合計）
面積／約1,986km（駅のある8市町合計）
主な観光地／軽井沢高原、浅間高原、懐古園、湯の丸高原、上田城、
さかき千曲川バラ公園、戸倉上山田温泉、善光寺



しなの鉄道線沿線地域まちづくり勉強会メンバー

プロジェクト説明

しなの鉄道線沿線地域には、魅力的な地域資源が多数存在し、沿線全体で年間約2,800万人の観光客が訪れる長野県内有数の観光エリアです。一方で観光客の多くが新幹線駅に集中し、沿線地域全体が十分に知られているとは言えない状況です。

そこで令和2年度に「地域交通」や「中心市街地活性化」といった共通の課題を持つ沿線4自治体と「しなの

の鉄道線沿線地域まちづくり勉強会（第一期）」を開催し、観光やまちづくりを検討する場を設けました。「各自治体で抱えている課題を解決するために、新幹線駅に偏っている観光客をしなの鉄道線の沿線地域に誘客する」という共通目標ができました。この目標が共有され、「上田市・千曲市広域シェアサイクル社会実験」（右ページ参照）や、体制図に示す関連プ

ロジェクトが組成されました。

令和5年度は、より広範な自治体と協議する場として「第二期」勉強会を開始。ここでは、沿線地域の大切にしたい価値や目指す将来像などについて話し合いました。現在はそれらの具現化に向けた体制づくりやプロジェクトを検討しています。



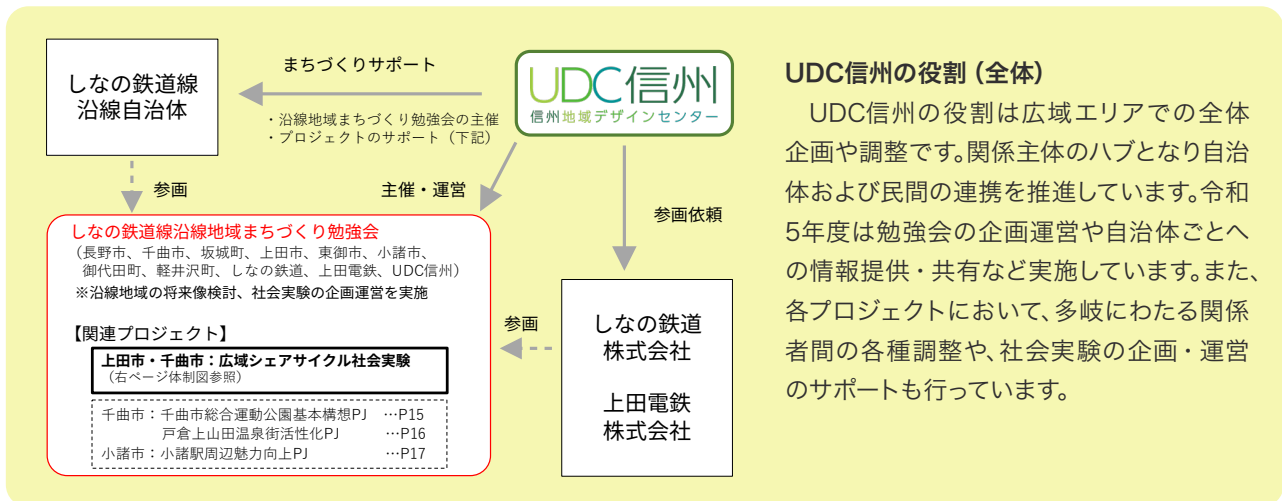
知事をゲストに迎えた勉強会



勉強会最終回のグループ発表



千曲川活用の社会実験



体制図

上田市・千曲市広域シェアサイクル社会実験

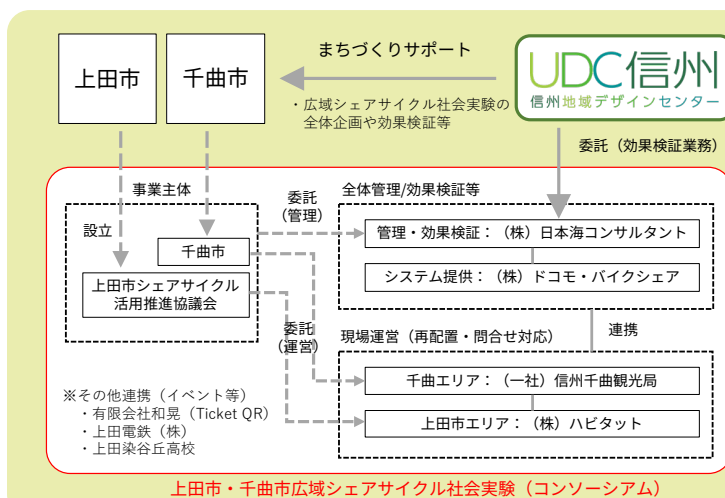
令和3年度から、鉄道やバスと組み合わせで広域を移動することができる「広域型シェアサイクル」の社会実験を行っています。レンタサイクル事業の無人化を検討していた上田市、自転車を活かしたまちづくりを検討していた千曲市と、2市で共通して使用できる広域シェアサイクルのアイデアが第一期勉強会の中で生まれました。

令和3年度に約6カ月、60台、10ポートの規模で開始し、令和4年度に

は90台、22ポートに規模を拡大しました。この年は県の環境部と連携し、長野県ゼロカーボン戦略に沿った環境配慮型サイクルポート（太陽光パネル+蓄電池）も導入しました。一連の取り組みが評価され一般社団法人プラチナ構想ネットワーク主催の第10回プラチナ大賞において、優秀賞（広域資源活用賞）を受賞しました。

実験開始から3年目となる令和5年度は、約9か月に実施期間を延長、利

用者も令和3年度の4倍以上に増えました。また、地元の高校生が手掛けるシェアサイクル試乗会や、地元店舗と連携したシェアサイクルでお店を巡ると特典がもらえるキャンペーンなども開催され、単なる移動ツールとしてのシェアサイクルではなく、地域交通や地域活性化のツールにもなるシェアサイクルとして定着しつつあります。



UDC信州の役割（シェアサイクル）

UDC信州の役割は、社会実験全体の管理と全体調整および効果検証です。運営体制は各市それぞれですが、共通する部分をUDC信州が担い、2市で共有して利用できる仕組みを構築しています。（体制図参照）

なお、社会実験は令和5年度で終了し、今後は両市がシェアサイクルの本格導入を検討するフェーズとなっています。

体制図

令和4年度

既存プロジェクトの課題把握

- ✓ 具体プロジェクト検討と実践（小諸市、千曲市、東御市）
- ✓ 第二期勉強会キックオフ

ニーズ等の把握

- ✓ 第2弾広域シェアサイクル社会実験（上田市・千曲市）

令和5年度

沿線地域の価値探索

- ✓ 第二期勉強会の開催（全6回）
- ✓ 勉強会報告書の作成

実装に向けた要件整理

- ✓ 第3弾広域シェアサイクル社会実験（上田市・千曲市）

令和6年度（予定）

沿線地域の将来像具現化

- ✓ 勉強会をベースに新たなプラットフォームの創設
- ✓ 広域シェアサイクルについては、上田市・千曲市にて本格導入を検討

今後の展開

令和6年度は、第二期勉強会でまとめた沿線地域の将来像を具現化すべく、勉強会をベースとする新たなプラットフォームの創設やプロジェクトの組成を検討していきます。

スケジュール（全体）

KEY PERSON's VOICE

沿線自治体、鉄道会社の皆さまとゼロベースでアイデアを出し合い、議論する機会は意外とありません。この勉強会のおかげで、日々の業務では得られないつながりを築くことができました。

小諸市
都市計画課
野崎雄さん

KEY PERSON's VOICE

東急百年のまちづくりノウハウをしなの鉄道沿線まちづくりに活かすという点では、どこまでお役に立てたのか分かりません。千曲川はじめ沿線には魅力的な地域資源があるので自治体連携で新たな物語を紡いで下さい。

勉強会
総括アドバイザー
東急株式会社
常務執行役員
東浦亮典さん

諏訪湖とまちなかの回遊性向上に向けて

この地域の最大の課題であった観光客の滞在時間を延ばすには、諏訪湖サイクリングロードの活用だけでなく、まちなかとのアクセス性を向上することが重要という観点から、まずは都市計画やまちづくりを所管している行政職員を対象に、諏訪湖とまちなかのつながりを考える「諏訪湖周辺エリア戦略検討会」（以下、検討会）

を立ち上げました。検討会では、2市1町で連携するプロジェクトの検討、自転車活用推進計画におけるネットワーク路線の修正案の検討などを実施し、最終的には参加者の共通したエリアの理念を導き出しました。更に自転車をよく利用している地域の高校生へのヒアリングを実施し、地域の高校生がどこを通り、どんな過ごし方

をしているのかを把握してきました。今後は、民間事業者の方へもヒアリングなどを実施しながら、検討会で出てきたアイデアの公民連携での実施に向けて、できることから実践していく予定です。また、諏訪市の上諏訪駅周辺まちなか未来ビジョン、下諏訪町の下諏訪町グランドデザインなどとも連携して進めていきます。



第3回検討会の様子



第3回検討会では三牧副センター長、山下アドバイザーも議論に参加

令和4年度

整備ガイドライン素案検討

- ✓ 基礎調査の実施
- ✓ 統一ルールや表示の検討
- ✓ ハード整備の実施

令和5年度

全区間完成

- ✓ ハード整備の実施
- ✓ 整備ガイドライン素案策定
- ✓ 計画改定検討

諏訪湖周辺 エリア戦略検討会

- ✓ 回遊イメージ案の策定

令和6年度（予定）

利活用の検討と実施

- ✓ 計画改定
- ✓ 整備ガイドライン策定
- ✓ 利用促進の検討

諏訪湖周辺 エリア戦略検討会

- ✓ 回遊イメージ案の実践

スケジュール



高校生ヒアリングの様子

今後の展開

令和6年度は、検討会で導き出した共通した理念をもとに、実施するプロジェクト案の具体的な検討や、各ビジョンと連携した取り組みを推進していきます。

KEY PERSON's VOICE

この度、諏訪湖サイクリングロードが全線開通します。この諏訪湖をぐるりと一周する全長約16kmのサイクリングコースは、諏訪湖が持つ豊かな自然と風景を気楽に楽しめ、健康づくり、観光利用、通勤・通学などの身近な交通手段と多様に利用されることに期待しています。ここを利用するすべての皆様が、のんびり、ゆったり、安全に利用していただけるよう取り組んでまいります。

諏訪建設事務所
整備課長
宮本 吉寿さん



KEY PERSON's VOICE

諏訪湖周辺エリア検討会を通じて、諏訪湖とまちなかの回遊性の向上のため自治体の垣根を越えて2市1町の職員が広域的に連携しながら諏訪湖周辺のまちづくりに関する議論の良い機会となりました。また、高校生とのヒアリングを通じて若い世代の方々が諏訪地域のどこに関心があるか把握でき、今後のまちづくりのピースを見出すことが出来ました。

岡谷市
都市計画課
高橋 那夏さん



日本のレクリゾートの象徴となるエリアを目指す レクリゾート創造プロジェクト

茅野市、立科町

プロジェクト概要

令和3年度に、白樺湖観光センター周辺の再整備について茅野市から相談がありました。センター周辺の整備計画策定と並行して、民間事業者へのヒアリングや現地でアンケート調査などを行いながら、白樺湖を含む周辺地域全体での構想の実現に向けた検討を進めています。

基本情報

市町村名／茅野市、立科町
人口（2024/3/1現在）／約62,000人（2市町合計）
面積／約333km²（2市町合計）
主な観光地／白樺湖、蓼科湖、女神湖、蓼科山、ハケ岳



白樺湖観光センター周辺エリア整備計画策定ワーキンググループ

プロジェクト説明

茅野市の蓼科湖、立科町の女神湖、両市町にまたがる白樺湖の3つの湖は、農業用に作られた人工ため池ですが、各エリアの重要な観光資源としても親しまれてきました。しかし、時代の変化とともに、観光客の減少、老朽化した施設による景観面での悪影響など、様々な問題が発生してきています。

近年、民間の新規事業者の出店など新たな動きが出てきている中で、上記の問題を解決するとともに、3つの湖をつなげて日本のレクリゾートの象徴的なエリアとすることを目指す

「レクリゾート構想」が令和4年7月に発表されました。現在はこの構想の実現に向け、公民連携で検討を進めています。

令和5年度は、民間事業者ヒアリング、来訪者の回遊状況や要望などを把握するための実態調査※を実施しました。実態調査では、3湖とも比較的高い満足度が高く、多くのリピーターがいるといった結果が得られた一方で、飲食店や物販店が不足している、情報がわかりづらい、もっと活気があればいいなどの声もありました。今後は、構想の内容をより具体的にするため

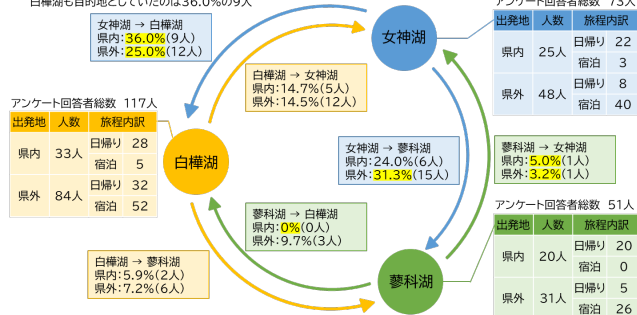
の体制づくりや、将来像の検討を進めていきます。

また、この広域エリアの検討と並行して、当初相談があった白樺湖観光センター周辺の再整備についても議論を進め、「白樺湖観光センター周辺エリア整備計画（案）」をまとめました。（右ページ参照）

※実態調査は、長野県庁の創造的活動支援制度（職員の勤務時間の一部を創造的活動に充てることができる制度）を活用し、有志職員の協力を得て実施しました。

【数値の見方】

例）女神湖に訪れた県内からの来訪者25人のうち、白樺湖も目的地としていたのは36.0%の9人



実態調査結果（3湖の回遊状況）



実態調査結果についての意見交換

茅野市
立科町

まちづくりサポート

- ・進め方の提案
- ・民間ヒアリング実施
- ・実態調査実施

UDC信州
信州地域デザインセンター

情報共有
調査支援

運営
調査実施

ヒアリング
情報収集

実態調査
【市町村】茅野市観光課
立科町産業振興課
【長野県】都市・まちづくり課
他部局の有志職員

【外部有識者】

- ・コンサルタント
- ・民間事業者

レクリゾート構想の具現化に向けた検討体制

UDC信州の役割（全体）

UDC信州は、2市町への進め方の提案、民間事業者へのヒアリング、実態調査の企画・調査・分析を実施してきました。また、レクリゾート構想の具現化に向けて、ヒアリングと実態調査の結果を踏まえた論点整理、2市町や様々な関係者が連携した体制づくりを進めています。

白樺湖観光センター周辺の再整備

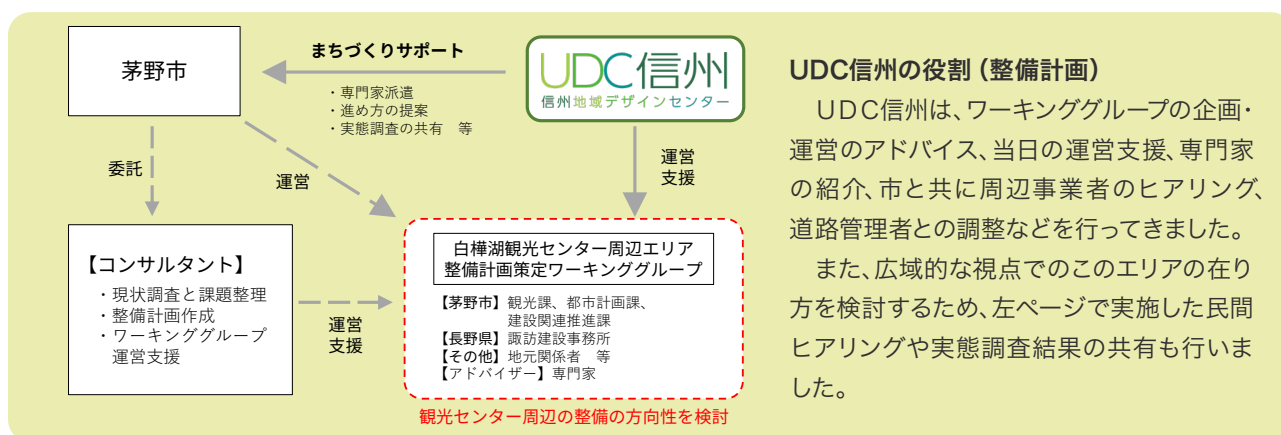
白樺湖観光センターの周辺では、老朽化した施設の解体や新たな広場の整備が進んでいますが、観光センターの建物自体の今後の利用方法や解体した建物の跡地の活用などの問題が残る中で、白樺湖の茅野市側の玄関口としての周辺の一体的な整備が望まれています。

そこで、令和5年度には整備の方向性を検討する場として、茅野市、長野県、民間事業者、専門家等で構成されたワー

キンググループを計4回開催し、必要と考えられる機能や施設、その配置イメージ、計画の実現に向けた推進体制などを「白樺湖観光センター周辺エリア整備計画（案）」としてまとめました。最初は10名程度で始まったワーキンググループですが、回を重ねるごとに参加者が増えていき、最終的には30名を超える参加をいただいて、地元の方々の想いや関心の高さが伺えました。

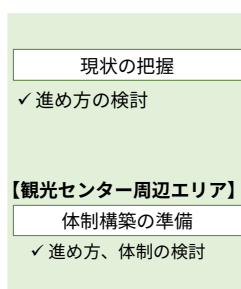
このエリアは、観光地でありながら、

付近には別荘があり、ホテルの従業員など居住されている方も多くいます。観光客だけでなく、ここで暮らす人も含めたすべての人にとって居心地がよい地域になるよう、今後も再生に向けた取り組みを進めていきます。

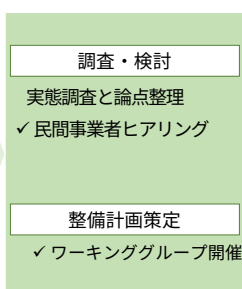


体制図

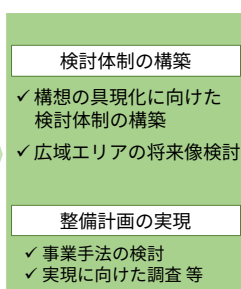
令和4年度



令和5年度



令和6年度（予定）



スケジュール

今後の展開

広域エリアについては、レイクリゾートを具現化するための体制づくりや将来像の検討を進めていきます。観光センター周辺については、整備計画の実現に向けて引き続き支援を行っていきます。

KEY PERSON's VOICE

令和5年度は、UDC信州の皆様のご支援、ご助言をいただきながら、白樺湖観光センター周辺エリアの整備計画を作り上げ、レイクリゾート構想の具現化に向けての第一歩を踏み出すことができました。今後は、立科町との連携により、蓼科湖、女神湖、白樺湖の3湖をつなげ、日本のレイクリゾートの象徴的なエリアとなることを目指していきます。

茅野市
観光課
長岡 精さん

KEY PERSON's VOICE

湖面はひとつながら多様なステークホルダーを有する白樺湖。ふたつの自治体に跨り、県道に接する民間観光施設や周囲の廃業した宿泊施設が目につく。ここで複数自治体、県、民間事業者、地権者（財産区）に声がけし、公民連携のフレームをUDC信州がリードして切り出せたのは大きかった。滑り出しは上々。民間事業者へきちんとバトンを渡したい。

ワーキンググループ
アドバイザー
東京大学
尾崎 信さん

湖畔とまちなかをつなぐ社会実験

社会実験は、諏訪大社下社付近で毎年春と秋に開催されている「三角八丁(イベント)」に併せて11月に実施し、まちなかと湖畔をつなぐモビリティの検証として乗り捨て可能なe-bikeレンタルの提供、湖畔や湖面の活用の可能性の検証として飲食やアクティビティの提供などを行いました。

企画の内容はワーキンググループでアイデアを出し合いました。参加してくれている学生の発案による湖畔の音楽会をはじめ、他の企画も同様にアイデアがでてきたものが形にな

り、公・民・学が連携して作り上げた社会実験となりました。

当日は晴天に恵まれ11月としては暖かい気候の中、多くの方に足を運んでいただきました。アンケートでも好評の声を多くいただき、湖畔や湖面の活用の可能性が大きく広がったと思います。今後も、グランドデザインの策定を進めるとともに、実現に向けた取り組みを実施していく予定です。



社会実験「湖畔日和」チラシ

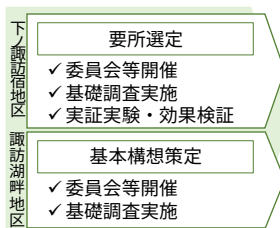


学生による湖畔の音楽会

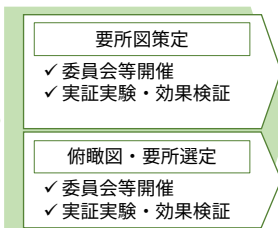


湖畔でくつろぐ様子

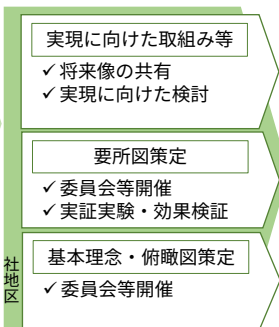
令和4年度



令和5年度



令和6年度(予定)



スケジュール

今後の展開

令和6年度、諏訪湖畔地区は最終の3年目を迎え、3地区目となる社地区がスタートします。今年度の社会実験の検証結果を踏まえて、来年度もグランドデザインの実現に向けた取り組みを実施していく予定です。

KEY PERSON's VOICE

令和3年度から地域の方と進めてきた下ノ諏訪宿地区のグランドデザインが完成しました。グランドデザインが完成したという達成感はあるものの、まちづくりとしてはこれからが本番だと感じています。来年度は諏訪湖畔地区も最終年度になりますので、これからも地域の方が誇れる住み続けたいまちづくりのために取り組んでいきます。

下諏訪町
建設水道課
嶋田 克哉さん



KEY PERSON's VOICE

下諏訪町グランドデザインの下ノ諏訪宿地区と諏訪湖畔地区のワーキンググループに参加しました。それぞれの地区の現状把握と将来像についてメンバーの皆さんと意見を交わし、様々な気付きがありました。現状の維持すら大変な時代ですが、将来像を描き、実現に向けた取り組み、連携、継続が大切だと感じています。次年度以降も楽しみです。

俯瞰図、要所図を
作成した地元建築家
Layer Architects
+Open Design
宮澤 正輝さん



諏訪市未来プロジェクト

諏訪市

プロジェクト概要

令和2年度に上諏訪駅周辺のまちづくりに関する相談から動き出し、令和4年度に官民連携による「上諏訪駅周辺まちなか未来ビジョン」を策定。その後、令和5年度にはビジョン実現に向け、社会実験の実施、官民連携エリアプラットフォーム「スワ・マチ・ミライ」を設立しました。

基本情報

市町村名／ 諏訪市

人口（2024/3/1現在）／ 約47,000人

面積／ 約110km²

主な観光地／ 諏訪湖、上諏訪温泉、諏訪大社上社本宮、霧ヶ峰高原



スワ・マチ・ミライ設立に関わった関係者のみなさま

プロジェクト説明

諏訪市のまちづくりにおいては、地域で活動するまちづくりの担い手を発掘、育成する場となる「上諏訪駅周辺の未来のまちづくりを楽しむ会議」（以下、エキまちカイギ）を令和3年度に創設。令和4年度には官民連携による10年後の将来像を描いた「上諏訪駅周辺まちなか未来ビジョン」（以下、未来ビジョン）を策定しました。その上で、今年度は未来ビジョンを実現する

ために官民連携で具体化に向けた検討を行う場となる「上諏訪まちなか未来ビジョンプラットフォーム（愛称「スワ・マチ・ミライ」）」（以下、スワ・マチ・ミライ）を令和6年3月に設立しました。スワ・マチ・ミライの設立にあたってはその役割や組織体制、活動内容、規約、メンバーの考え方などを議論するために、未来ビジョンを策定した委員を中心とした準備会議を

全5回開催しました。今年度で官民連携による未来ビジョン実現のための検討の場が設立されたことから、来年度以降は具体的な官民連携プロジェクトを実施する予定です。

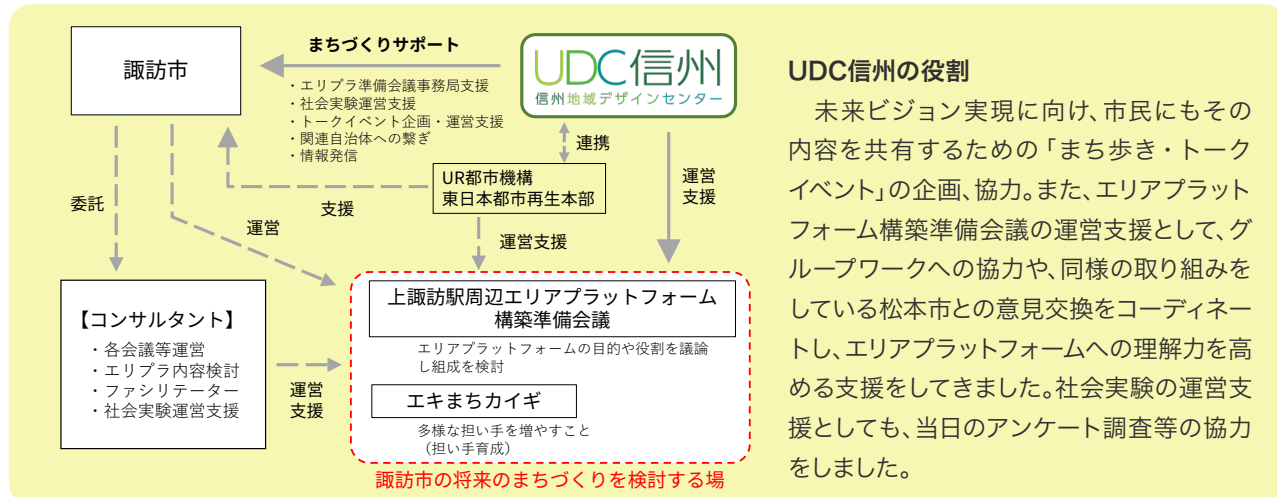


エリアプラットフォーム構築準備会議の様子

準備会議の進め方

日程		
4月		・エリアプラットフォームとは何か ・上諏訪ではどのようなものが適しているか
5月		
6月	16/26（月）	・協議会の位置づけ、機能や役割 ・協議会の組織体制のイメージ
7月		
8月	28/21（月）	・協議会の役割、組織体制（確認） ・協議会の取組み内容、メンバーの考え方（意見交換）
9月		
10月	31/23（月）	・協議会メンバーの考え方、素案 ・規約などのルールの考え方
11月		
12月	4/12/18（月）	・協議会のメンバー（案） ・規約案
令和5年		
1月	5/1/25（木）	・設立に向けた準備
令和6年		
2月		
3月		協議会の設立

スワ・マチ・ミライ設立に向けた主な内容の流れ



体制図

ウォーカブルに向けた地域と連携した取り組み

未来ビジョンに示す「歩いて楽しめる」まちの将来像を体感できる場・機会の提供を創出するため、社会実験「上諏訪エリアチャレンジVOL.1@末広通り」を開催。諏訪圏青年会議所が開催するイベント「諏訪圏フォーラム」と同日の開催とすることになり、両者が連携して地元や出店者、什器等の調整を行いました。

社会実験当日は、青年会議所関係者の出店だけでなくエキまちカイギ参加者による企画ブースも並び、普段は見られない賑わいの風景が創出さ

れました。

また、公共空間を活用することに対する来場者アンケートや、国土交通省が作成している「まちなかの居心地の良さを測る指標」を用いた調査を行い、社会実験における効果も検証しました。



末広通りの様子



商店街駐車場の様子

令和4年度

未来ビジョン策定

- ✓ 策定会議の開催
- ✓ 具体プロジェクト検討
- ✓ 「エキまちカイギ」開催

令和5年度

スワ・マチ・ミライ設立

- ✓ エリアプラットフォーム組成検討
- ✓ 社会実験実施
- ✓ 「エキまちカイギ」開催

令和6年度（予定）

スワ・マチ・ミライ始動

- ✓ 具体プロジェクト検討
- ✓ 社会実験実施
- ✓ 「エキまちカイギ」開催

スケジュール

今後の展開

令和5年度にエリアプラットフォーム「スワ・マチ・ミライ」が設立されビジョン実現に向けた官民連携体制が構築されました。令和6年度はスワ・マチ・ミライに参画しながら官民連携プロジェクトを構成員と一緒に検討していきます。

KEY PERSON's VOICE

エリアプラットフォーム構築、社会実験など、未来ビジョン実現に向けた多くの取組みを実施してきました。それぞれの場面で、UDC信州や関係者の皆さまには、アドバイスのほか、人的・物的サポートもいただき、着実に成果を上げることができました。今後もまちづくりの取組みを止めることなく、魅力的な上諏訪駅周辺エリアを創っていきます！

諏訪市
都市計画課
岩波 雅博さん



KEY PERSON's VOICE

未来ビジョンの策定、エキまちカイギの発足、スワ・マチ・ミライの設立。上諏訪にあった公民協働のかたちについてみんなで模索を続け、今、新たなスタートラインに立ちました。自分たちの欲しい未来を手にすることができるか、全てはこれからです。視点を変えれば、このまちにはまぶしいほどの可能性があります。上諏訪の皆さん、一緒に頑張りましょう！

構築準備会議
ファシリテーター
株式会社ユニークエディションズ
代表取締役
西尾 京介さん



千曲市総合運動公園基本構想プロジェクト

千曲市

プロジェクト概要

令和3年度に総合運動公園構想策定に関わる支援の依頼を受けました。協議会に参画しつつ構想策定を支援し、令和4年度末に基本構想が策定されました。本地域には、運動公園、戸倉上山田温泉、千曲川が隣接していることから、単なるスポーツエリアではなく、健康や観光の拠点にもなるようなエリアを目指しています。

基本情報

市町村名／千曲市

人口（2024/3/1現在）／約59,000人

面積／約119km²

主な観光地／戸倉上山田温泉、あんずの里、姨捨の棚田、埴科古墳群



「戸倉上山田地区かわまちづくり協議会設立準備会」の様子

プロジェクト説明

「千曲市総合運動公園」は平成15年度の合併時に策定した「まちづくり計画（新市建設計画）」の中に記載されています。総合運動公園の整備検討は、新庁舎の建設や令和元年東日本台風により着手が遅れていましたが、令和3年度より検討が開始されました。

基本構想の検討においては、協議会と3つのエリア（「戸倉体育館エリア」「白鳥園エリア」「河川敷エリア」）を検

討する部会を設け、対象地の現況や市民のニーズ等を把握しながら、エリアコンセプトやゾーニング案等を取りまとめました。そして、令和5年3月に市の新たなランドマークとなることを目指して「千曲市総合運動公園構想」が策定されました。この構想は、戸倉体育館をはじめとする既存のスポーツ施設の見直しを図りながら、白鳥園南側の未利用地や千曲川の河川敷の有効活用も含めて、一体的かつ効果

的な土地利用や地域活性化を目指すものとなっています。

令和5年度は前述3エリアのうち、「河川敷エリア」についてかわまちづくり協議会設立準備会が設置され、UDC信州も参画してきました。準備会では、整備後の運営主体を想定しながら具体的なアイデア出しを行い、整備内容の検討が進められています。



体制図

UDC信州の役割

UDC信州は、整備内容の検討に向けた支援として、かわまちづくり協議会準備会への参画、先進地の視察企画、官民連携によるかわまちづくりの事例紹介を行いました。また、3つのエリアの担当課がそれぞれ異なることから、担当課間のハブとなり整備・検討が一体的かつ効果的に進むよう支援を行ってきました。

令和4年度

基本構想の策定

- ✓ エリアの活用方針検討
- ✓ 市民ニーズ把握
- ✓ 民間活用検討

令和5年度

基本計画の検討開始

- ✓ 一部エリア基本計画検討
- ✓ 民間活用検討

令和6年度（予定）

基本計画の検討継続

- ✓ 各エリア基本計画検討
- ✓ 民間活用検討

スケジュール

今後の展開

来年度以降も、整備内容の検討に向けて担当課と検討を進めていきます。また、3つのエリアの整備・検討が一体的かつ効果的に進むよう支援していきます。

KEY PERSON's VOICE

令和4年度末に総合運動公園基本構想が策定され、今年度、当課の担当する「河川敷エリア」では、UDC信州の支援をいただきながら、かわまちづくり計画策定のためのアイデア出しを進めました。計画策定や整備等を進めて、このエリアにおいて、公園全体のコンセプトである「みんなが集い・憩い・楽しめるコミュニティスポーツパーク」の実現を目指していきます。

千曲市
都市計画課
若林 幸秀さん



そぞろ歩きが出来る、懐かしくも新しい温泉街へのRebornを目指して 戸倉上山田温泉街活性化プロジェクト

千曲市

プロジェクト概要

令和3年度に千曲市より戸倉上山田温泉の活性化について相談を受けました。本地区は、温泉街に隣接する県道の改良工事が予定(時期未定)されており、温泉街の交通が大きく変化する可能性があります。これらも想定しながら、改めて温泉街のあり方を検討し始めています。

基本情報

市町村名/ 千曲市

人口(2024/3/1現在) / 約59,000人

面積/ 約119km²

主な観光地/ 戸倉上山田温泉、あんずの里、焼捨の棚田、埴科古墳群



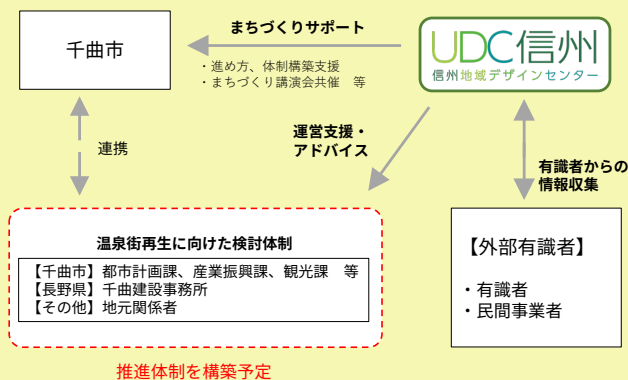
戸倉上山田温泉全景 (写真提供 信州千曲観光局)

プロジェクト説明

戸倉上山田温泉は古くから親しまれてきた県下有数の温泉地であり、週末には温泉街でイベントも開催されるなど資源が豊富な地域です。一方で、コロナ等を契機にした観光客数の大幅な減少に直面しており、改めて温泉街の魅力を高めていく必要性を行政・民間ともに感じています。また、温泉街の中心を貫く中央通りは、旅館や飲食店が並ぶメイン通りとなっている一方、国道18号の迂回路にもなっている

ことから通過交通も多く、快適な歩行者空間が確保できていないのが現状です。そのような中、隣接する県道の改良工事が予定(時期未定)されており、改良後の県道に通過交通が誘導されることが想定されます。これらを契機として、改めて中央通りを含めた温泉街のあり方の検討が始まりました。令和4年度には専門家とのまち歩きや、地元向け講演会を開催したことにより地元の関心や機運が高まりつ

つあります。令和5年度は、庁内関連部署や地元等を含めた話し合いに参画したり、担当課との意見交換を実施しながら、今後の進め方や体制構築について提案を行いました。

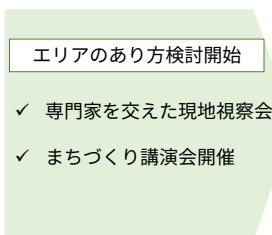


体制図

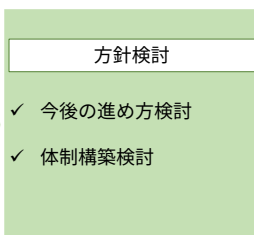
UDC信州の役割

UDC信州は、専門家とのまち歩きや地元向け講演会の開催などを通じて、温泉街のポテンシャル把握や地元の機運醸成を支援してきました。また、中長期的なロードマップ、官民連携体制の構築、イベントと連携した社会実験の実施について提案を行ってきました。

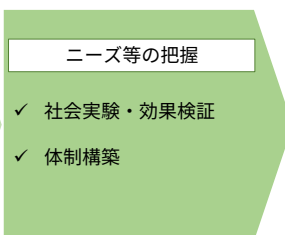
令和4年度



令和5年度



令和6年度(予定)



今後の展開

来年度以降は、イベント等と連携した社会実験の実施や、官民連携体制の構築を進めていけるようにサポートしていきます。

KEY PERSON's VOICE

千曲市
都市計画課
伊藤 和也さん



令和3年度からUDC信州の支援を受けながら、地元関係者と一緒に戸倉上山田温泉街のまちづくりについて協議してきましたが、令和6年度に戸倉上山田温泉街におけるまちづくり協議会が設立されることになりました。市としても、温泉街の様々な課題の解決に向け協議会の運営をサポートし、戸倉上山田温泉街のグランドデザインを作っていきます。

小諸駅周辺魅力向上プロジェクト

小諸市

プロジェクト概要

平成 29 年に小諸市、UR 都市機構、UR リンケージで「多極ネットワーク型コンパクトシティによる都市再生に関する基本協定」を締結しました。令和元年度に UDC 信州設立以降、UR グループと連携して小諸駅周辺のまちづくり支援を実施しています。

基本情報

市町村名／ 小諸市

人口（2024/3/1現在）／ 約42,000人

面積／ 約99km²

主な観光地／ 浅間山、小諸城址、懐古園、高峰高原、布引観音、北国街道・小諸宿

プロジェクト説明

小諸駅は西側に県内有数の観光地である懐古園がありますが、東側にある中心市街地の魅力向上に課題を抱えていました。そこで、平成29年度に小諸市とURグループで協定を締結したことを契機に、UDC信州も市の掲げる「利便性が高く、居心地がよい、ひらかれた都市づくり」の実現に向けて支援を行ってきました。

近年は、新規出店の増加により魅力が高まりつつあるまちなかの情報発信と、懐古園などを訪れる観光客

にまちなかまで足を延ばしてもらうための取り組みを支援しています。

令和5年度は、これまで実施した社会実験から見えてきたことを踏まえて、ポータルサイト、MaaSアプリ、EVバス、グリーンスローモビリティ等を連動させたDX社会実験を実施し、情報通信技術と交通をつなげることで小諸市内の回遊性の向上を図りました。また、駅前にベンチやテーブル等を置いて自由に過ごすことができるスペースを設置したり、車両の乗り降りがで

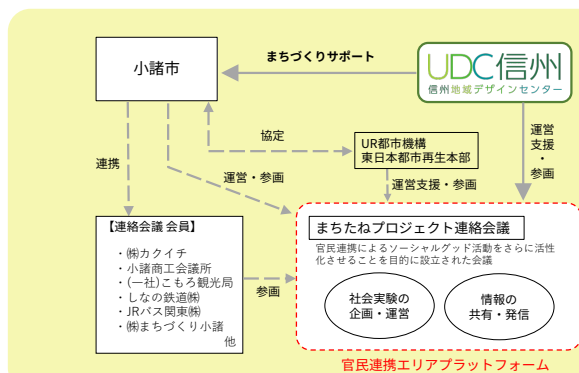
きる位置を明確にしたりすることで駅前広場内の交通整序を行う社会実験を実施し、将来的な駅前広場の再整備の方向性について検証しました。



社会実験で利用したグリーンスローモビリティ「egg」



小諸駅前の社会実験の様子



体制図

UDC信州の役割

UDC信州は、小諸駅周辺の子育てや健康づくりなど社会全体に良い影響を与えるソーシャルグッド活動を推進するために立ち上げた、官民連携エリアプラットフォームである「こもろ・まちねプロジェクト」の連絡会議の構成員として、小諸市やUR都市機構とともに、社会実験などの各種プロジェクトの企画、全体調整を行っています。

令和4年度

ニーズ等の把握

- ✓ 社会実験・効果検証

令和5年度

ビジョンの検討

- ✓ 小諸駅周辺の滞留空間創出の検討
- ✓ 回遊性向上に向けた取り組みの検討

令和6年度（予定）

ビジョンの実現

- ✓ 小諸駅前空間の創出に向けた社会実験・検証
- ✓ エリアビジョン実現に向けた検討

スケジュール

今後の展開

令和6年度は駅前広場の空間配置を見直しての社会実験と、令和5年度に策定されたエリアビジョンの実現に向けた支援を実施していく予定です。

KEY PERSON'S VOICE

MaaS事業では、スマートカートeggやEVバス、デマンドタクシーを組み合わせた運行を行いました。来街者との接点としてLINEを活用した電子チケットの発券やイベント情報の発信なども併せて実施し、小諸の認知を広げる目的は一定程度果たせました。今後は、来訪者との交流・つながりをより濃いものに、小諸ファンになってくれるロイヤルカスタマーをいかに増やしていくかが課題です。

小諸市
都市計画課
五十嵐 均さん



プロジェクト概要

令和2年に空き家を活用したまちづくりについて相談がありました。この地域では、官民連携の取組として空き家・空き店舗見学会などが行われています。空き家等の利活用をより推進するため、地域おこし協力隊を活用した体制構築を検討しています。

基本情報

市町村名／安曇野市
人口（2024/3/1現在）／約96,000人
面積／約332km²
主な観光地／穂高神社、大王わさび農場



第18回明科駅周辺まちあるき空き家空き店舗見学会

プロジェクト説明

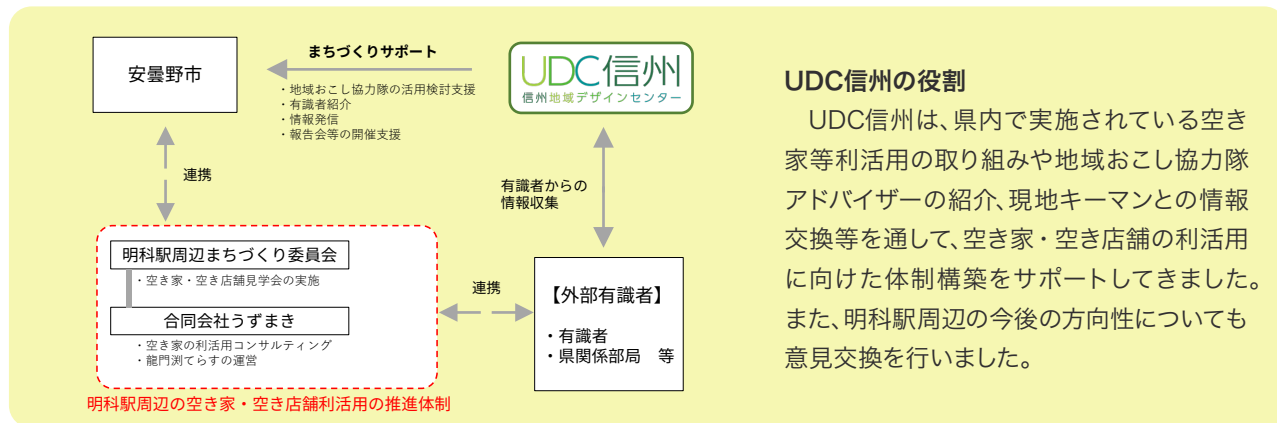
明科地域は、龍門淵公園、あやめ公園、長峰山、旧国鉄篠ノ井線廃線など、様々な資源に恵まれた地域です。しかしながら、市街地には空き家も多く存在しており、令和4年には一部が過疎地域に指定されました。

一方で、明科駅周辺では国道19号の歩道等整備や、明科駅周辺まちづくり委員会による空き家・空き店舗見学会の実施、合同会社うずまきが空き家をリノベーションしたシェアスペース「龍門淵てらす」のオープンなど、

様々な取り組みが行われています。

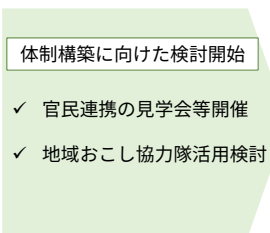
空き家等の利活用を更に推進するための人材が不足していることが課題の一つであったため、令和4年度にUDC信州から地域おこし協力隊を活用した体制構築について提案を行いました。全国各地で採用されている地域おこし協力隊ですが、行政側の目的や地域おこし協力隊の業務内容設定が曖昧である場合、想定していた効果が上がらないことがあります。そこで、令和5年度にはUDC信州が長野県地

域おこし協力隊アドバイザーを紹介し、採用目的や業務内容の明確化を進めていきました。その結果、採用募集に多くの応募があり、市と地域が望む地域おこし協力隊の採用が決まりました。「安曇野市東部アウトドア拠点整備基本構想」に位置付けられた拠点づくりを進めていくため、市、地域、地域おこし協力隊が連携しながら様々な取り組みが行われることが期待されます。

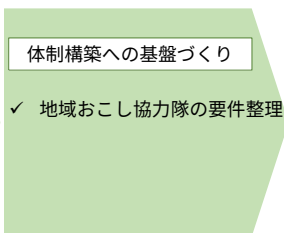


体制図

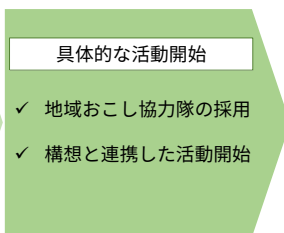
令和4年度



令和5年度



令和6年度（予定）



今後の展開

今後は、空き家・空き店舗利活用について、UDC信州が支援する他市町村への横展開を検討していきます。

スケジュール

KEY PERSON's VOICE

安曇野市
移住定住推進課
白木 雅浩さん



明科地域での空き家・空き店舗まちあるき見学会も21回目を迎えました。これまでの活動を通じて、明科地域では空家を活用した事例が増えています。本年度はUDC信州の皆様のサポートを得ながら、地域おこし協力隊の採用を行いました。今後は、地域・協力隊のメンバー・市の連携を深め、さらに明科地域の価値を高めていきたいと思っています。

善光寺だけじゃない! 中心市街地の魅力を生かした再生に向けて 長野中心市街地まちなか再生プロジェクト

長野市

プロジェクト概要

長野市が策定した「長野中央西地区市街地総合再生基本計画」の進め方について令和4年度に相談があり、市長との意見交換会や先進地視察など実施してきました。令和5年度は、地域商店会との勉強会を開催しウォーカブルを意識したまちづくりに向け、今後の進め方を議論しています。

基本情報

市町村名/ 長野市

人口(2024/3/1現在) / 約365,000人

面積/ 約835km²

主な観光地/ 善光寺、戸隠神社、松代城、飯綱高原、鬼無里



第2回勉強会の様子

プロジェクト説明

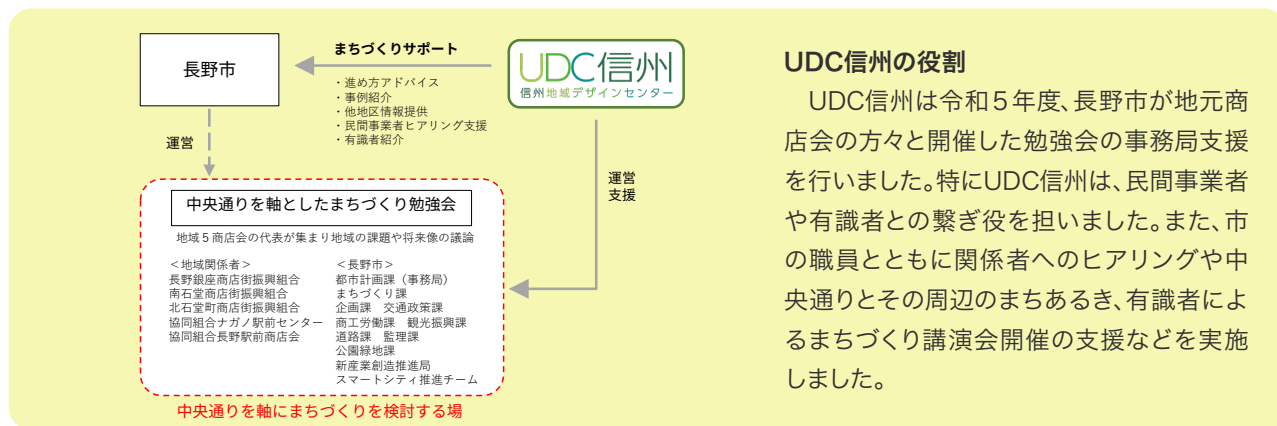
長野市では、長野駅周辺から新田町交差点周辺までのエリアを対象に、将来に向けたまちづくりを官民連携で進めるため、令和4年2月に「長野中央西地区市街地総合再生基本計画」を策定しました。この計画に重点プロジェクトとして位置付けた中央通りや新田町交差点周辺における各プロジェクトに関して、今後の取り組みや進め方について、市や地域の関係者とともに議論しています。中央通りで

は、基本計画に掲げる「ウォーカブルなまち」の実現に向けて、地域5商店会の方々と「中央通りを軸としたまちづくり勉強会」(以下、勉強会)を4回開催し、地域の魅力や課題点などを議論してきました。また、勉強会では、地域全体でウォーカブルなまちの実現に向けた機運を高めていくため、有識者による講演会を開催しました。次年度以降は具体的な将来像の共有やその実践を検討しており、中心市街地

の関連する事業者と連携しながら中心市街地の在り方を検討していきます。



第3回勉強会の様子



体制図

令和4年度

状況把握

- ✓ 現状の課題把握
- ✓ 進め方議論
- ✓ 先進地視察

令和5年度

地域との現状共有

- ✓ 勉強会・講演会開催
- ✓ 地域や民間ヒアリング
- ✓ 進め方検討

令和6年度(予定)

目指す姿の共有と実践へ

- ✓ 地域との将来像の共有
- ✓ プレイヤー発掘
- ✓ 目指す姿の実践に向けた検討

スケジュール

今後の展開

令和6年度は、関係者の意向や調整状況を勘案しつつ、市とともに進め方や体制、事業手法の検討などを行い、ウォーカブルなまちの実現に向けた取り組みを実施していきます。

KEY PERSON'S VOICE

地域商店会との「中央通りを軸としたまちづくり勉強会」が今年度スタートし、UDC信州さんには勉強会の企画や今後の進め方のアドバイス、民間事業者や有識者を紹介いただくなど、多岐にわたるサポートをいただきました。これからも庁内や地域の皆さんと連携しながら、中央通りを軸に、ウォーカブルなまちの実現に向けて取り組んでいきます!

長野市
都市計画課
依田 拓巳さん



旧城南中学校利活用プロジェクト

飯山市

プロジェクト概要

令和3年度に、飯山市から旧城南中学校跡地の利活用を検討したいとの相談がありました。まずは、敷地全体の利活用に向けた基礎調査と測量などの条件整理を行い、令和5年度にはプレサウンディングを実施して、広く利活用のアイデアを募集しました。

基本情報

市町村名／飯山市
人口（2024/3/1現在）／約19,000人
面積／約202km²
主な観光地／斑尾高原、戸狩温泉、菜の花公園



旧城南中学校全景

プロジェクト説明

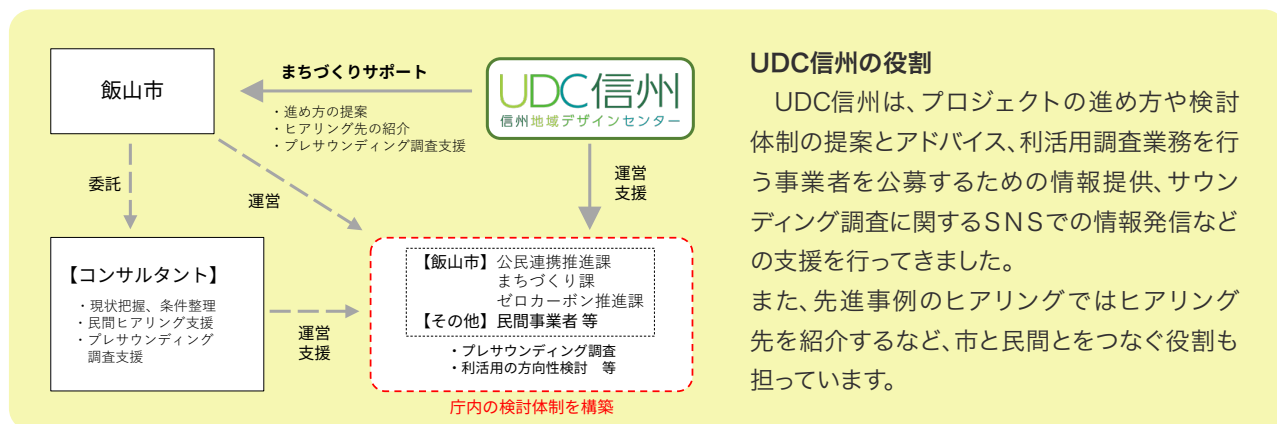
飯山市の旧城南中学校は、昭和41年に第一中学校として開校後、平成22年の統合により城南中学校と名称を変更して開校しましたが、施設の老朽化や耐震性の問題などから、平成28年8月に校舎の移転を実施しました。空き校舎となった旧城南中学校の校舎や敷地については、これまでも市が独自に利活用の検討を進めてきましたが、具体的な方針は定まってい

いた状況でした。

このような中、令和4年度には、利活用に向けた調査を行う事業者が公募により決定したことから、市と事業者とともに、今後の進め方の検討、関係者や先進事例のヒアリングなどを行いました。

令和5年度には、民間から広く利活用のアイデアを募集するためのプレサウンディング型市場調査を実施し

ました。様々な事業内容の提案、改修の費用負担やインフラ整備といった事業実施の条件など、計10者から多くの貴重なご意見をいただいたので、今後も継続して対話を実施し、試行的な取組の実施についても検討しながら、利活用の可能性を探っていきます。



体制図

令和4年度

現状の把握

- ✓ プレサウンディング調査の準備
- ✓ 民間事業者ヒアリング

令和5年度

ニーズ等の把握

- ✓ プレサウンディング調査の実施
- ✓ 民間事業者ヒアリング

令和6年度（予定）

管理者、ルール決定

- ✓ サウンディング調査の検討
- ✓ 試行的な取組の実施検討

スケジュール

今後の展開

来年度は、民間へのヒアリングを実施しつつ、試行的な取組を実施していく予定であり、ヒアリング先の紹介や取組の内容検討などについて支援を行っていきます。

KEY PERSON's VOICE

令和5年度は、跡地の利活用についてプレサウンディング型市場調査を実施したところ、結果10者の参加が有り、多くの跡地利活用のアイデアをご提出いただきました。ありがとうございました。令和6年度は、この跡地を活用して飯山市の都市経営課題を解決するべく、調査に参加いただいた皆様等との対話を続け、さらに跡地の活用方法を深掘りしていきます。

飯山市
公民連携推進課
山崎 裕晃さん



令和5(2023)年度 主なプロジェクトのスケジュール

プロジェクト名/年度	R3	R4	R5	R6
しなの鉄道線沿線地域の 回遊性向上PJ 【P5～P6】	・第一期勉強会(R2～) (沿線4市+鉄道事業者 +UDC信州で構成)	・第二期勉強会(R4～) (沿線8市町+鉄道事業者2社 +UDC信州で構成)		・第三期勉強会(R6～) PJ組成を目的とした新たな プラットフォームを検討
(広域シェアサイクル社会実験) 【P6】	・広域シェアサイクル社会実験(R3～R5) →回遊性向上への効果把握 滞在効果への効果把握 事業性の検証 等			・上田市、千曲市において 本格実装を予定 ・沿線にある同様のシェア サイクルやレンタサイクル の統合も検討
諏訪湖周自転車活用まちづくりPJ 【P7～P8】	・諏訪湖周自転車活用推進協議会	・整備ガイドラインの検討	・ルール周知 ・諏訪湖サイクリングロード完成	・サイクリングロード開通式 ・計画改定
レイクリゾート創造PJ 【P9～P10】	・観光センター周辺の 現状把握	・観光センター周辺のWG 設置に向けた検討 ・レイクリゾート構想発表 ・広域(3湖周辺)の現状把握	・観光センター周辺のWG ・観光センター周辺整備計画検討 ・広域エリアの実態調査 ・広域エリアの検討体制検討	・計画実現に向けた事業手法 の検討等 ・広域エリアの検討体制構築 ・広域エリアの将来像検討
下諏訪グランドデザインPJ 【P11～P12】	・対象地区のグランドデザイン策定委員会及びワーキンググループ ・下ノ諏訪宿地区俯瞰図策定	・下ノ諏訪宿地区要素選定 ・諏訪湖畔地区基本構想策定 ・社会実験等の実施 (R4～R5) →R4下諏訪宿本陣(左) →R5「湖畔日和」(右) ※R6も予定	・下ノ諏訪宿地区要素図策定 ・諏訪湖畔地区俯瞰図策定 ・諏訪湖畔地区要素選定 	・下ノ諏訪宿地区実証実験等 ・諏訪湖畔地区要素図策定 ・社地区基本構想策定 
諏訪市未来PJ 【P13～P14】	・「エキまちカワイギ」の発足 および定期開催(R3～) →参加者が 様々なプロジェクトを 市内で実施中	・R4「第一回かみすわー箱古本市」 	・R5複合施設「ボーターリ」オープン 	・R5「湖畔クリスマスマーケット」 
		・未来ビジョン策定会議 ・未来ビジョン策定	・エリブラ構築準備会議 ・エリアプラットフォーム組成 ・社会実験の実施	・エリブラ始動 ・ウォーカブルに向けた検討 ・社会実験の実施
千曲市総合運動公園基本構想PJ 【P15】	・基本構想策定方針の策定 (R2) ・基本構想策定協議会	・基本構想の策定	・基本計画の検討(R5～) ・かわまちづくり協議会準備会	・かわまちづくり協議会
戸倉上山田温泉街活性化PJ 【P16】	・現状把握 ・進め方の検討	・専門家との現地調査 ・まちづくり講演会の開催	・ビジョンの検討(R5～) ・社会実験/効果検証(R5～)	・まちづくり組織の構築
小諸駅周辺魅力向上PJ 【P17】	・官民連携の体制構築 ・まちなかDX社会実験(R3～R4) →回遊性向上への効果把握 駅前のにぎわい把握 等		・ビジョンの検討、公表 ・駅周辺の滞留空間創出に 向けた検討	・駅周辺の滞留空間創出に 向けた社会実験の実施 ・ビジョン実現に向けた検討
空き地・空き家の利活用PJ 【P18】	・空き家の利活用に関する シンポジウムの共催 ・空き家見学会のサポートや 体制検討(R3～R5)	・空き家の利活用に関する シンポジウムの共催 ・地域おこし協力隊の活用検討	・協力隊の募集に係る要件整理 ・協力隊の募集、採用 (支援終了)	(市、民間、協力隊が連携した まちづくりの展開へ)
長野中心市街地まちなか再生PJ 【P19】		・現状把握 ・進め方の検討 ・先進地視察	・勉強会開催 ・勉強会や講演会の開催 ・地域や民間へのヒアリング	・ウォーカブルに向けた検討
旧城南中学校校利活用PJ 【P20】	・現状把握 ・進め方の検討	・プレサウンディングの準備 ・民間事業者ヒアリング	・プレサウンディングの実施 ・民間事業者ヒアリング	・サウンディングの検討 ・試行的な取り組みの検討

その他の進行中プロジェクト

■ 諏訪湖イベントひろば利活用検討PJ / 諏訪市

諏訪圏域発展のために持続可能で魅力的なエリアとなるように検討を進めています。

■ まちなかりノベーション推進 PJ（伊那北駅周辺） / 伊那市

伊那北駅周辺を地域の文教拠点としていくため検討を進めています。

■ 下平地区（サッカー場ほか） / 高森町

町営サッカー場整備等の事業を踏まえたビジョンづくりの検討を進めています。

■ 湯田中駅周辺の活性化 / 山ノ内町

湯田中駅周辺の活性化を検討するワークショップの運営サポートを行っています。

■ 新設道の駅 + 市街地の連携 / 佐久穂町

道の駅整備を契機とした地域振興を検討する協議会の運営サポートを行っています。

■ 中心市街地のビジョンづくりと公共施設再編 / 岡谷市

ラオカヤを含む岡谷駅周辺のビジョンづくりの検討を進めています。

■ 中心市街地の未来ビジョンづくり / 中野市

信州中野駅から一本木公園を含むエリアの未来ビジョンづくりの検討を進めています。

■ 中心市街地の未来ビジョンづくり / 上田市

上田駅周辺の未来ビジョンづくりの検討を進めています。

■ 茅野駅西口再整備PJ / 茅野市

茅野駅周辺の公共空間の利活用及び駅西口周辺の再整備に向けた検討を進めています。



湯田中駅周辺のワークショップの様子



UDC信州内で進め方等を検討

アドバイザーへインタビュー

UDC信州の強みや今後の展開について



山下 裕子 氏
(まちなか広場研究所 主宰)

×



新 雄太 氏
(東京大学 特任助教)

×

Interviewer

● UDC 信州常駐スタッフ

(濱、倉根、宮田、竹内、羽生田、調)

全国初の広域型 UDC

● UDC 信州は、令和元年8月に設立し、令和6年8月で丸5年が経ちます。設立検討委員会の時から関わっていただいているお二人がこれまでの活動を見てきた上で感じるUDC信州の強みを聞かせてください。

山下 県が主体となっていることもあり、単体の市町村ではなかなか取り組めない公共交通やサイクリングロードなど、広域で検討が必要なテーマにおいて音頭がとれることが強みだと思う。

新 県が主体となって設立した唯一無二のUDC。広域ネットワーク自体は県の役割そのもので、目新しいものではないが、それが見えるようになってきた。県庁の外に出ることで話しやすくなり、今までのネットワークが太くなったと感じています。

● UDC 信州が出来て、市町村の職員としっかり話ができる時間ができたと感じています。「相談があれば県庁舎へ」というスタイルから「相談は現地でお聞きします」というスタイルに変えたことも大きい。最初は県職員が現地に来ることに驚かれましたが今ではそれが当たり前になっています。元々県と市町村はネットワークがありましたが、それが太くなったイメージです。問題と

なっている現場と一緒に歩き、地元の食堂でご飯を食べ、いろいろな方に話を聞く、そんな当たり前のことが出来るようになりました。



打ち合わせは現地へ

市町村同士をつなぐ

新 県が隣接する市町村同士を繋げるのはもちろん、同じ課題感を持った市町村を繋げられるのも強みだと思う。たまたまある市町村が最初に行っているだけの場合もあるので、そこで情報共有出来ると「仲間」というのが分かる。県外の先進事例にリーチするのも必要ですが、同じ県内で同じ悩みや事例があると知れるだけで価値があると思います。

● 今年度、諏訪市をフィールドに実施した実践型セミナー（P29 参照）がとても好評でした。普段は一緒に仕事をすることがない職員同士でフィールドワークをして資料をつくるのが新鮮だった様子。また、こういった機会を通じて交流が生まれ、UDC 信州を介さずやり取りす

るようになったという話も聞いています。

新 同じ県内だと他市町村でも生活者として行ったことがある場所だと思うので、前提をある程度理解しているので取り入れやすい。UDC 信州の設立当初は、市町村からの相談を個別対応していたので、こうやって繋がりを生めるようになってきたことは素敵だなと思います。



実践型セミナーの様子（フィールドワーク）

「広域型」でも身近な存在

● まちづくりの分野では、本来の県の役割が強化された実感していますが、一方で、広域型UDCとして、市町村のまちづくりをサポートしている性質上、「〇〇はUDC信州が作りました」と言った分かりやすい成果が見えなかったり、個別の地域にどこまで関わるかが課題になることもあります。それらを踏まえた上で、今後のUDC 信州の展開についてお二人の考えを聞かせてください。

新 以前、UDC 信州と一緒に活動

した大町市の関係者からは今でも「信濃大町 100 人衆 P J」は良かった」と耳にします。市町村の職員からだけではなく、民間の方からもそういった評価を聞くこともあります。目には見えないですが、そういった成果はある。また、市町村の事情、職員の事情もあるので、「何とかしなきゃ」と入り込み過ぎる必要もないと思います。段階に応じたサポートがあると良いですし、地域の方の機運も上がるその時を待つためにできることをする感じ。

山下 その通り。諸事情が沢山ある中で、2、3 年止まることはよくある。大事なのは連絡を取り合っておくことだと思います。状況が変わったりしたときに気軽にまた相談できる関係をつくっておくこと。また、職員には「異動」もあります。担当者の異動によっても状況が変わることがありますが、「異動」はネットワークが広がる機会と捉えてみる。他分野にも気心した職員が居るのは心強いです。

UDC 信州はいつでも相談に乗ってくれる、自分の市町村の外の人や情報を繋いでくれると思ってもらうことが重要。特に若い職員にそれを伝えたいですね



先進地視察等で関係性を強化

自ら活動してみる

● UDC 信州として各地のサポートをしています。行政計画の策定サポートのようなものは少なく、実際にまちの中で何かを起こしていくよ

うなことを目指す取り組みのサポートが増えています。大きな方向性の共有として「ビジョン」をつくりませんが、実際に自分で活動していないと具体的なアクションに繋がるビジョンが作れないと感じています。

山下 まちづくりの分野で活躍しているある方が「100 円の価値が分からずしてまちづくりに関わるな」とおっしゃっていました。UDC 信州のメンバーも何かアクションを起こしていいのでは？おすめは、地元の企業や事業者とタイアップして、年に数回でも良いので何かやってみる。自転車を使ったグルメツアーの企画でもいい。やってみることで分かることがあると思います。また、メンバーの中に、絵やパースが描ける人がいるといいですね。絵があることで共感力、推進力が上がります。



社会実験にUDC信州のスタッフ関係者が出店

新 そうですね。UDC 信州の目的のひとつに「まちづくりの主体となる市町村をサポートする」とありますが、まちづくりの主体は市町村だけではなく、民間や住民など様々な方がいます。行政だけでなく、様々な方々と活動することで、UDC 信州の活動がどこにどれだけの効果を与えているか、「居心地の良い空間」といった具体の空間がどれだけできたのかなどが見えてくると思います。

山下 足で稼ぐというのは基礎中の基礎。机上の空論は死語にしたい。生活者としてはいろんなところに行っていると思うので、プライベートと仕事を分けて、両方の視点で様々な活動をして良いのではないかと思います。

まちづくりのハブとなる

新 UDC 信州はこの 5 年間で、ビジョンの策定から社会実験の実施、ビジョンの具現化に向けた具体的な活動のサポートなど、様々なことに関わってきた。そういった活動を UDC 信州ならではの視点でまとめたり、論点整理したりしても良いと思っています。

● まちづくりに正解はないが、「こういう課題に対してこのようなアプローチをしてうまくいった」という事例は議論をしていく上での参考になる気がしています。また、行政に限れば、国の交付金や補助金など予算情報も参考になったりする。そうやって「まちづくりのハブ」になることも目指したい。

新 いいですね。UDC 信州に集まった情報や課題を整理し、それをもとにしたシンポジウムやセミナーを開催する。まちづくりというテーマで相談すれば様々な視点やアプローチでサポートしてくれる。そんな部署は他にないと思うので期待したいです。

山下 UDC 信州に所属したり関わったりすることは、ネットワークが広がったり、ご自身がワクワクする感性にあらためて気がついたりする機会だとも思います。いつも、出会いこそ人生！と感じております。プラットフォームである UDC 信州の活動をもっともっと愛用していただけたら幸いです！

● ありがとうございました。お二人には今後もアドバイザーとしてお力を借りたいですし、地区によっては専門家として参画していただくこともありますので引き続きよろしくお願いします。

column 02.

UR コラム

URふるさと応援プロジェクト

地域経済の活性化に取り組む地方のみなさまと UR 団地等にお住まいの方々とを繋ぎ、地域経済の活性化と団地等の魅力向上を同時に達成するプロジェクトを、関係会社を含めた UR グループで推進しています。

具体的には、地域の特産品などを UR 団地等で販売するマルシェを開催し、物販のみならず地域の情報発信を行い、地方のみなさまと UR 団地等にお住まいの方々との交流の場を提供しています。

● YOKOHAMA i・LANDPARK 2023 ● @神奈川県 横浜市



2023 年 5 月に、UR 都市機構の本社がある横浜アイランドタワーで「YOKOHAMA i・LANDPARK 2023」が開催されました。UR 都市機構がまちづくり支援を行う自治体の特産品を販売するマルシェが開催され、長野県茅野市からも出店していただきました！

● ニッポンうまいものミニマルシェ ● @大阪府 茨木市

2023 年 5 月に、彩都東部地区で、2 回目となるニッポンうまいものマルシェが開催されました。全国から 12 の地方都市が参加し、地域の名産品を販売しました。今年初参加となった長野県も「信州プレミアム・ハラミ焼肉ライスボール」の調理販売を実施しました！



● 大道芸フェス ● @東京都 多摩市



2023 年 11 月に開催された「大道芸フェス」では、メイン会場となる多摩センター駅のパルテノン大通りで長野県上田市と小諸市がブースを出店しました。

珍しい種類のりんご食べ比べセットの限定販売や、地域の名産品の販売などを行いました！

UDC 信州

育む
CULTIVATION

アーバンデザインセンター会議 2023 in 信州

@ 信州大学繊維学部講堂



出口センター長による開催挨拶



会場である信州大学繊維学部講堂

2023年11月25日に、アーバンデザインセンター会議2023 in 信州を開催しました。アーバンデザインセンター会議とは、年に一度各地のUDCの実務メンバーが集まり、各地の取り組みを共有し、関係メンバーが交流する貴重な機会です。第11回を迎えるアーバンデザインセンター会議、今年度は上田市にある信州大学繊維学部講堂をメイン会場として開催しました。UDC信州の特徴を踏まえ、今回のメインテーマは「市町村を支える広域型UDC」としました。

【上田城ミニツアー】

午前中は、開催都市である上田市に全面的なご協力をいただき、上田城ミニツアーを実施しました。上田市では、上田城跡の価値を次世代に伝えていくため、櫓復元や武者溜りの整備等に向けた取組を進められています。ツアーでは、上田市職員の丁寧な解説のもと、武者溜りの発掘調査地や残された櫓などを見学しました。



上田市職員の説明を聞く参加者の様子

【開催挨拶】

▼主催代表

出口 敦 氏 (UDCイニシアチブ代表理事)

▼共催代表

阿部 守一 氏 (長野県知事)

▼開催都市

小相澤 隆幸 氏 (上田市副市長)

午後はいよいよアーバンデザインセンター会議の開催です。まずは、主催者であるUDCイニシアチブ代表理事の出口敦氏から挨拶がありました。「普段実務に携わっていると、様々な業務に追われているが、ただ目の前にことに精一杯になっていると、何のためにまちづくりをしているのか俯瞰して考える時間がなかなかないのでないか。そういった点で、年に一度実務者が集まって原点に立ち返り、自分たちの取り組みの意味を考え直す機会は非常に重要。」「なぜ、海外の都

市空間は日本の都市空間に比較してあんなにも魅力的で豊かなのか。日本の都市空間は必要性の論理でつくられていったが、その根拠が崩壊すると魅力が無くなる。それが海外の都市空間と比較して欠ける点だ」など気付きの多いお話をいただきました。

続いて、所用により出席がかなわなかった阿部知事の挨拶を、長野県都市・まちづくり課井出課長が代読しました。まちづくりにおけるUDCへの期待や、本会議を通じた参加者同士の交流促進、各地での魅力的なまちづくりの更なる促進などについてお話がありました。

最後に、開催都市として小相澤副市長よりご挨拶いただきました。歓迎の言葉から始まり、ご当地紹介、上田城の武者溜り整備やシェアサイクル事業をはじめとするまちなかの様々な取組をご紹介します。

【UDC信州の活動報告】

▼講演者

濱 智裕 (UDC信州 チーフコーディネーター)

倉根 明德 (UDC信州 コーディネーター)

竹内 利宗 (UDC信州 コーディネーター)

▼現地セッション登壇者

倉根 明德 (同上)

竹内 利宗 (同上)

東城 雄飛 氏 (上田市都市計画課 主任)

堀川 さおり 氏 (諏訪市都市計画課 主査)

ホストであるUDC信州の活動報告を行いました。代表的な活動内容として「しなの鉄道沿線の広域的なまちづくり支援」と「諏訪湖周辺の広域的なまちづくり支援」を紹介し、地域特性や支援に至った背景、UDC信州の役割などを共有しました。

その後、上田市及び諏訪市職員にも加わっていただき、UDC信州の役割や存在意義などについてセッションを行いました。両市職員からは、UDC信州をハブとして他市町村との連携がしやすくなった、専門家等の知見を取り入れることができたなどお話がありました。一方で、市町村間や庁内の調整で苦労されることもあるなど、現場のリアルな状況も共有していただきました。UDC信州からは、UDC信州は市町村よりも”考える時間”が比較的多く割ける中で、いかに市町村支援へ還元できるか、また、コーディネーター個人のスキルアップの必要性などについて話が出ました。UDC信州は県が主導する唯一の広域型UDCですが、それゆえのリアルな議論が展開され、参加者には興味を持って聞いていただけたのではないのでしょうか。



現地セッションの様子

【全国UDCフラッシュトーク】

各UDCから組織概要や特徴、直近のトピックなどについて紹介がありました。UDCは現在全国24拠点（うち2拠点は活動終了）に展開していますが、対象エリアや活動内容は様々です。各地域の課題や資源に応じてオーダーメイドのUDCが設立されていることを改めて感じられる発表でした。

【グループセッション】

広域、担い手育成、空間デザインなどいくつかのテーマに分かれて各UDCの課題やノウハウの共有を行いました。限られた時間でしたが、他UDCメンバーの発言に気付きを得て、共感している場面がうかがえました。UDCの活動内容は様々ですが、意外と悩みが共通していることも多く、非常に有意義な時間となりました。



グループセッションの様子

【閉会挨拶】

▼共催代表

林 靖人 氏 (UDC信州副センター長)

最後に、UDC信州の副センター長である林靖人氏から挨拶がありました。「Webや報告書による平面的な情報（単なる事実、成功・良い部分）だけではなく、対面のWS等もあり、悩みや人的繋がり構築などの立体的でリアルな情報交換、熱量の交換が可能になり、モチベーションアップの機会になった」「この機会が、個別のUDC間の連携（視察、ノウハウ共有）に繋がる可能性があり、まちの課題解決

が促進されることに期待をする」「まずやってみる。形にする。議論する。進める、若しくは止める。PDCA2.0 (P: プロトタイプिंग→D: デザイン→C: コミュニケーション→A: アクセルor アウェイ)が重要である。」など印象深いお話をいただきました。

【エクスカーショ】

翌日11月26日は、しなの鉄道沿線市町村（長野市、上田市、千曲市、小諸市）にて、それぞれのまちの魅力を活かしたエクスカーショを実施しました。参加者からはUDCらしい視点で質問や感想をいただき、企画者にとっても学びが多いものとなりました。この地域には豊かな資源があること、またそれを活かす面白い方々がいらっしやることを再確認できたエクスカーショでした。



千曲市エクスカーショの様子



小諸市エクスカーショの様子

【まとめ】

以上、アーバンデザインセンター会議2023 in 信州の様子をお伝えしました。この信州の地で開催できたことはとても貴重な経験でしたし、全国のUDCから刺激を受けたり、信州の豊かさを改めて感じたりと、とても学びのある二日間でした。

社会実験の効果的な 進め方について



石黒 卓 氏



高橋 卓 氏



森 元気 氏

第12回のセミナーでは、座学だけではなく、フィールドワークを加えた「ワークショップ型」のセミナーを初開催しました。講師には、数々の実践とノウハウを有している一般社団法人アーバンデザインセンター大宮(UDCO)のメンバーをお迎えしました。

UDC信州に寄せられる相談には、「ウォーカブルに取り組みたいが、どのように社会実験を企画立案すればよいか分からない!」といった声が多いことから、午前の部では、大宮駅周辺での取組みを事例としてレクチャーしていただきました。社会実験の目的や企画プロセス、効果測定などを学ぶことができました。当日は、実際に社会実験を企画中の市町村職員も参加していたため、具体的な質問が数多く出され非常に有意義な時間になりました。

午後の部では、グループに分かれて

上諏訪駅周辺のまち歩きを行い、現状や課題、ポテンシャルを把握。その後、グループ毎にワークショップを行い、対象エリアの課題解決から価値創出につなげるための社会実験アイデアを出し合いました。上諏訪駅周辺エリアを初めて歩いた参加者も多く、短時間でエリアの特徴を捉えることは難しいかと思われましたが、どのグループもセミナーであることを忘れるくらい熱心にディスカッションを行った結果、エリアの特性に着目したバラエティ豊かな提案が数多く出されました。これには、ホストである諏訪市

役所の職員も驚いていました。

今後も県内各地で様々な社会実験が行われていくと思いますが、今回のセミナーで学んだノウハウを活かしていきたいと考えています。



グループ発表の様子

長野県における “ウォーカブルなまち”を考える

第13回のセミナーでは、「ウォーカブルなまち」について理解を深めるため、泉山准教授をお招きし、講義+ディスカッションを行いました。「ウォーカブル」と聞くと、都心部の街路空間をイメージしがちですが、地方ではどんなことができるのか?に焦点を絞った内容としました。

まず、前半はウォーカブルなまちづくりに向けた国の施策背景や海外の動向、なぜ人中心のまちづくりが大切

なのかといった概念などをご説明いただきました。

その中で特に印象に残ったのは、



泉山 壘 氏

(日本大学理工学部建築学科 准教授)



講義資料の一部

『ウォーカブルなまちづくりを進めるには、まち全体で考えることが必要で、徒歩だけでなく自転車などの交通手

段も考えることが重要だ』ということでした。歩きたくなる街というのは、目的地、そこに至るまでの環境、交通結節点からの適切な距離感など、いろいろな要素によって形づくられるものだとあらためて気付かされました。

後半は、泉山先生とUDC信州の倉根が参加者からの質問を中心にトークセッションを行いました。全ては書ききれませんが、大きなプロジェクトを進めていくためには、「10年後」のように大きい目標だけだと実感がわ

かないので、小さな目標もつくり、社会実験等を通じて自分事化してもらうことが重要、また、最初に進める事業はその効果が分かりやすいところからやった方がよく、特に、その街で大事なエリアや空間、精神的にも重要な場所等で行うことが重要といったお話がありました。

また、倉根から『長野駅から善光寺まで（約2km）の中間地点に公園ができたことで、歩く人が増えた感覚がある』と話題提供したところ、泉山先

生から、『「歩きたい」距離は400m程度で、「歩ける」距離は800mくらい。休憩できる空間により精神的な距離感を短くすることも重要』とのお話がありました。急遽、長野市の職員も加わってディスカッションするなど、ライブ感のあるセミナーになりました。

昨年度も実施したトークセッションは高い評価を頂いているため、今後も取り入れていきたいと考えています。

2024/3/7 第15回まちづくりセミナー

前橋市の官民連携 まちづくり

第15回のセミナーは、「実効性の伴うビジョンとは？」「行政職員の役割とは？」という部分にフォーカス。群馬県前橋市において官民連携で「前橋市アーバンデザイン」を策定し、それを具現化するための様々な事業を仕掛けている講師をお招きし、前橋市の事例をお聞きました。



瀬藤 正樹 氏
(前橋市産業経済部
にぎわい商業課 課長)



田中 隆太 氏
(前橋市産業経済部
にぎわい商業課 主任)



セミナーの様子

最初に瀬藤課長から前橋市のアーバンデザインができた背景やその策定プロセスなどをお話いただきました。策定のきっかけは民間側から「官民バラバラで施策や事業をしているのはどうなのか？」という投げ掛けだったそうです。その後、前橋らしいビジョンをつくることを目的に、アメリカのポートランドへ官民の視察団を派遣。ビジョン策定に関しては、そこでの学びを活かし「実効性を伴う計画づくり」として実行力のあるメンバーを中心に集め、そのメンバーがやりたいことを引き出すためのワークショッ

プ等を行ったそうです。印象的だったのはそのWSのやり方。一般的なWSは、参加者が資料に付箋等で意見を書き、次回それらがまとまった資料を見てまた意見を出すというパターンが多いですが、このときのWSでは、出た意見をその場で図や絵にしながらまとめていったそうです。この方法によって、2倍以上の回数をやった感覚だったようです。続いて、田中主任から、「マチスタント（まちのアシスタント）」として、日々まちなかに繰り出し、各店舗や空き家のオーナーさんと話をしているお話を

聞きました。個々のお困りごとに寄り添いながらも「こんなお店があったらいいな」という想いを持って話を聞いたり、行政職員が使いがちな「まちづくり」という曖昧な言葉は極力使わないように心掛けているそうです。そうした積み重ねによって信頼関係がつけられ、様々な官民プロジェクトが立ち上がっているのだと理解できました。「次は前橋市でお話しましょう!」と言っていただけたことも嬉しかったです。今後も、このような繋がりをつくっていききたいと思います。

先進的まちづくり会社による 取り組みの視察（岐阜県多治見市）

～たじみDMOの取り組み～



たじみDMO小口さんによるまちなかの説明

民間主導のまちづくりの機運が高まるなかで、自治体と協力してまちづくりを推進するまちづくり会社のニーズが高まっています。今回は、まちづくり会社の有効活用に課題意識を持つ自治体職員等、約10名で先進地視察を行いました。

まずは、今回の視察先である「たじみDMO」へ。かつて時計店であった店舗をリノベーションした、たじみDMOが入居する素敵な建物内でお話を伺いました。「たじみDMO」は一般社団法人多治見市観光協会を母体として、もともと存在していた「多治見まちづくり株式会社」「株式会社華柳」を統合し、中心市街地活性化と観光・産業の振興を目的に観光地域づくりを行う法人として、令和4年4月から新たにスタートしています。

建物の視察の後、たじみDMOのCOOである小口英二さんから、設立の背景や現在のまちづくり活動を伺いました。観光協会の会費を廃止し、様々な事業により財源を確保されていること、その結果、雇用形態はさまざまながら約50名の職員を雇用し、行政からの補助よりも多額の収益を生んでいることなどを伺いました。具体的な事業として、中心市街地の活性化につなげるため、まちなか創業の出店サポートを行ったり、出店者発掘のため「多治見ビジネスプランコンテスト」を開催して創業の伴走支援を行っ

たりしていることなどを伺いました。出店サポートのために、たじみDMOが自ラビルを借りてリノベーションを行ったのち、サブリースで出店者に貸し出す取り組みを行っていることも伺いました。

小口さんから、まちづくり活動を行っている中で心構えとして「外の事例の真似をせず、この地域とかけあわせて出来ることはなにかを、自分たちで考えることが大切」と話がありました。小口さんをはじめ、スタッフの皆

さんがまちに繰り出して情報を集め、考え続けながらまちづくり活動を進めていることが伺え、刺激を受けました。

小口さんのお話を伺った後、中心市街地の視察やJR多治見駅前の虎溪用水広場の現地視察を行いました。虎溪用水広場はたじみDMOのプロデュースで、野外本屋の「Yonday book picnic」という企画や、近隣のファッション専門学校の学生たちが手がけるファッションショーなどの企



たじみDMOが入居するヒラクビル

画が行われる場になっています。この日もキッチンカーが出ていて、お昼休みを過ごす近隣のオフィスの方々の憩いの場となっていました。主に中心市街地活性化を手掛けるたじみDMOですが、駅前の公共空間活用の取り

組みもとても参考になりました。

まちづくりにおける公民連携の取り組みが増加するなか、民間主導のまちづくりの中核となる、まちづくり会社の有効活用のニーズはますます高まってくるものと思います。まちづくり

主体を育てていくひとつの手段としても、引き続きまちづくり会社の取り組みを視察や調査を行い、UDC信州の市町村のまちづくり活動サポートに活かしていきたいと思います。

2023/8/18 第14回まちづくりセミナー

自転車活用および公共空間活用に係る 先進地視察（石川県金沢市）

～公共シェアサイクルサービス「まちなり」及びまちなかの公共空間～



金沢市役所での意見交換の様子



自転車専用レーン視察の様子

市町村からのUDC信州への相談で「自転車（シェアサイクル）の活用」「河川敷、遊休地等公共空間の活用」をテーマとした相談が寄せられることがあります。今回はこれらの課題意識を持った自治体職員等、約20名で先進地視察を行いました。

まずは、金沢駅から公共シェアサイクルサービス「まちなり」に乗ってまちなかへ。参加者全員で金沢市街地の道路を走り、自転車での移動を体験しました。統一されたサインで自転車専用レーンが整備されているところも多く、安心して走ることができました。その後は自転車で金沢市役所へ移動。金沢市のご担当者から、これまでの自転車まちづくりのプロセスや、歩行者と公共交通を優先するための「駐車場附置義務の緩和」など、関連事項についても詳細なご説明をいただきました。また、公共空間活用の具体

例として、公園や広場などの公共空間活用モデル事業「マチノバカナザワ」、河川空間利活用社会実験「サイガワリバーサイドアクト」の説明もいただきました。

市役所での説明をいただいたのち、「サイガワリバーサイドアクト」の現場である国登録有形文化財「犀川大橋」へ。犀川では、犀川大橋を橋上カフェとする「犀川リバーカフェ」など官民連携で実施しています。「犀川リバーカフェ」は、道路の維持管理に協力する団体である「道路協力団体」の指定を受けた「金沢片町まちづくり会議」

により実施されています。視察中に団体関係者から、維持管理にかかる費用を捻出するための収益活動を道路上で実施できることなど伺いました。そのほか、今後のあり方が検討されている日本銀行金沢支店跡地や、2022年にリニューアルオープンした石川県立図書館などの視察を行いました。今後、長野県内各地でも関連する取り組みや検討が進んでいくと思います。UDC信州としてもこれら関連のテーマにつきサポートを行ってきたいと思います。

01. 上田染谷丘高校による若い世代へのシェアサイクル認知度向上の取り組み



アリオ上田でシェアサイクル試乗会を開催！



講演者の話に熱心に耳を傾ける生徒さんたち

【若い世代へのシェアサイクル認知度向上の取り組み】

UDC信州のプロジェクトである「しなの鉄道線沿線地域の回遊性向上プロジェクト」では、地域の高校生たちも参加してくれています！

上田市内のMAPづくりやコースづくりなど、毎年度継続してシェアサイクルの取り組みに注目してくれている上田染谷丘高等学校では、今年度も「総合的な学習（探究）の時間」の中で、生徒自らシェアサイクルの若者への認知度を上げるための活動を実施しました。

令和5年度に上田市で社会実験として導入されたシェアサイクルの1回利用は、クレジットカードがないと乗れないため、ほとんどの高校生が利用できませんでした（半日券、1日券は現金での利用が可能）。そうした中、環境にも優しいシェアサイクルの魅力に気付いた生徒たちで、認知度を上げるために高校の敷地内で試乗会を実施し、魅力をPR。更にgoogleフォームによるアンケートを実施し認知度

把握も行いました。

上田市とUDC信州では、この試乗会に向けて協力してアドバイスを実施したり、シェアサイクルを用意して高校生たちをサポートしてきました。

【まちづくりについて話し合おう】

シェアサイクルの取組等をきっかけに、まちづくりに興味を示してくれる生徒がいるということで、「上田染谷丘高校探究社会人講演会」でUDC信州が講演を行いました。

講演では、実際に高校生がまちづくりに関わっている事例をいくつか紹介しました。大町岳陽高校の生徒による地元で活躍する方々へのインタビュー、上田染谷丘高校の先輩方によるシェアサイクル活用推進のためのMAP作成やサイクリングコース開発、その他県内外で高校生が行った公共空間づくり、高校生の居場所場所づくり、まちづくりの組織づくりなど、高校生が活躍している事例は沢山あります。生徒の皆さんは興味深そうに耳を傾けていました。また、上田駅前の課

題や改善策を話し合うワークショップを行い、最後は各グループの意見をまとめて発表してもらいました。

生徒からは、「高校生にはまちを良くすることは難しいと思っていたが、上田染谷丘高校の先輩方も活動していることを知り、まちづくりは自分たちにとって身近なものだと考えが変わった」「ワークショップでは、自分とは違う視点で意見を言っているメンバーがいて面白かった」「自分の住む地域のまちづくりや活動団体を調べたい」などの感想をいただきました。今回のような話し合いがまちづくりの第一歩であるということを感じてもらえたら何よりです。

02. 諏訪湖周辺の高校生の日常とは・・・？



下諏訪向陽高等学校でのヒアリング



諏訪実業高等学校でのヒアリング

将来のまちのビジョンを描くときに、これから大人になる若い世代が地域で生き活きと活躍したり、住みたい！と思えるまちになっていることは地域の誰もが望んでいると思います。

そうした中で、UDC信州が複数のプロジェクトを進めている諏訪湖周辺地域において、普段、この地域の高校生がどんな過ごし方をしているのかを把握するために、普段のまちの居場所、どんな生活をしているのか、将来のまちがこうなってほしいなど、自治体職員とUDC信州でヒアリングをしてきました！

ヒアリングを実施してみると、岡谷側に住んでいる学生と対岸の諏訪側に住んでいる学生では行動範囲に違いがあったり、諏訪湖で活動する「端艇部」がある高校があったりと諏訪湖周辺の特徴が見て取れました。よく行くお店では、当然のように全国チェーン展開されているお店の名前が多く上がりますが、その理由にチェーン店ならではの「安心感」があるそうです。自由に使える時間とお金が限られる

高校生にとって、メニューの価格帯や求めている味などが考えられますが、そうした安心感をどうつくるかが課題だと感じました。そして、大人が当たり前のように知っているお店や地域資源は、学生にとっては全く知らないこともあり、そうした感じ方のギャップはヒアリングによって気付かされた部分でした。

また、この地域の特徴としては、電車や自転車を利用しながら、テスト前に集中して勉強しに行く場所、友達と集まっておしゃべりする場所、平日の放課後に遊びに行く場所など、この地域の3駅を状況によって使い分け、広域的に動いていることがわかりました。特に、駅から2kmほど離れたカフェまで歩いて行くのは全然苦にならない！といった声もあり、車社会に慣れた大人としてはとても驚きでした。

将来の就職先としては、名古屋や東京などの都心部を考えている学生もいますが、子育てする際にはこの地域に戻ってきたいという声も多く聞こえ、この地域への愛着があると感じま

した。ただ、特に流行に敏感な若者は、やはり都心部にしかないお店やまちへの憧れはあるようで、そこを求めていることも改めて確認できました。

このヒアリングを契機に、地域のまちづくりの活動に興味を持った高校生の一部が、諏訪市が主催している「エキまちカイギ」に高校生として初めて参加し、少しずつ地域のまちづくりに学生が関わりを持とうとしています。その中でも高校生が感じている疑問点を大人に投げかけ、普段気付かなかったところに対しても注目が集まるようになり、より有意義な活動になってきていると思います。UDC信州としても、まちの将来を担う学生に少しでも地域の活動に関心を持ってもらえるよう、これからも「学」との連携に取り組んでいきたいと思っています！

UDC 信州

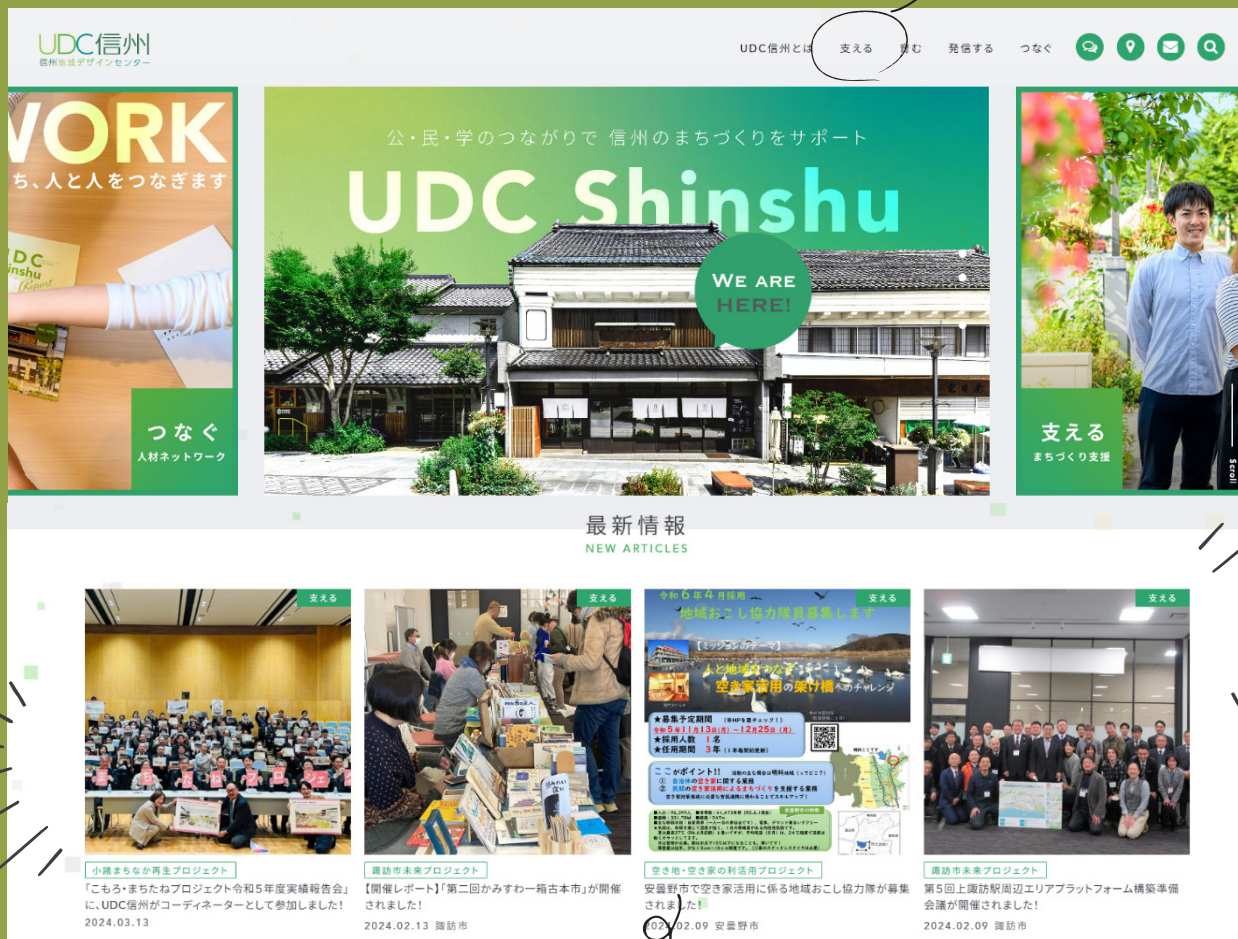
発信する
MEDIA

発信する

MEDIA

UDC信州の公式WEBサイトを紹介します！

進行中のPJ
詳細はこちら



週に1回程度の頻度で UDC 信州の活動や県内外のまちづくり情報を発信

公式WEBサイト

- ・令和5年度 49,393 view
- ・発信コラム数 40コラム



公式SNS

f facebook

Instagram



公式メールマガジン

- ・毎月最終金曜日に配信 (全12回)
- ・メルマガ登録者数 965名
- ※新規登録は右のQRコードからお願いします。



発信する

おわりに

UDC信州スタッフより

常駐スタッフ

チーフコーディネーター

濱 智裕（長野県）



令和5年度は、全国UDC会議や視察の方などUDC信州の取り組みを知っていただく多くの機会に恵まれました。広域的に県が支援するしくみについてみなさんからわがまちにもあればいいという声をいただきました。また、今年は鉄道沿線や湖周などのエリアについて積極的に取り組みました。連携により多くの地域資源が共有でき地域全体の魅力を一層向上させる方向性が見えてきました。今後は民間事業者とともに居心地の良い空間を創造し、地域を盛り上げていければと思います。多くの皆様に感謝申し上げます。

コーディネーター

羽生田 彩乃（長野県）



UDC信州で活動してから1年が経ちますが「UDC信州って何しているの？」と聞かれて単刀直入に答えられた試しがありません。その理由を考えると、「まちづくり」のひとつことには、ハード的な空間整備だけではなく、交通、観光、関係者との合意形成、体制づくり、地域のコミュニティによる活動そのものなど、実は様々なテーマが含まれているからなのだと思います。まちづくりには正解が無いと言われますが、正解はいくつもあるという心持ちで、関係者の皆さんと一緒に仮説を立てながら奮闘していきたいです。



センター長 出口 敦（東京大学）

社会経済活動が本格的に再開するなか、特に情報通信技術を活用したワーケーションや移住への関心は引き続き高く、どのような場所で働き、どこを生活の場とするかということがますます価値あるものとなってきており、自然豊かで潤いがあり賑わいもある場所、快適で居心地の良い空間で過ごしたいという希望者の思いはますます強くなっていると感じます。UDC信州は構想策定や運営組織の構築をはじめ、先導的な取り組みにつながるよう公・民・学の構成団体と連携し、引き続き新たなまちづくりにつながる場の創造を県内各地で進めてまいります。

コーディネーター

倉根 明德（長野県）



構想、立ち上げ、運営と約8年間UDC信州に携わらせていただきましたが、この間にまちづくりが「つくる目線」から「つかう目線」に大きく変化したことを実感しています。実際にその場を使う人たちで、話し合ったり、社会実験をしたりしながら徐々に形をつくっていくまちづくり。この大切さや面白さを多くの関係者と共有できたこと、自治体の枠を超えた官民のつながり「チーム」を各地に数多くつくれたことがUDC信州の最大の成果だと感じています。今後、各地域のチームがどんな「居心地の良い空間」をつくっていくのか楽しみです。長い間本当にありがとうございました。

コーディネーター

調 恵介（長野県）



UDC信州に参画して2年が経ちました。本年度は主に、しなの鉄道線沿線の広域まちづくりに関わったほか、沿線各市町のプロジェクト支援に関わってきました。勉強会や市町村まちづくりセミナー関連でお招きする、長野県外の方とのやりとりが多いのですが、長野県各地の豊かさとおまちのポテンシャルを皆さんお話しになります。地域に住まう人がまちづくりに関わり、公民連携の取り組みがさらに進むことがポテンシャルの開花に繋がるように思っています。自身が関わるプロジェクトでも、より多様な方々と語り合う場を持てたらと思っています。

コーディネーター



UR都市機構

令和5年度は、UDC信州の特色を生かした、複数の市町村や民間企業等と連携した広域的な取組みに加えて、個別地区の取組みにおいてもまちの回遊性の向上や駅前空間の活用方法について社会実験を通して検討を重ねることで、ひとが心地よく利用できる空間のありかたについて検証を進めることができました。UDC信州設立から5年目という節目の年としての成果を意識しながら取組みを進めることができた1年だったと感じています。URは引き続き、UDC信州の一員として長野県のまちづくりを支援していきます！



副センター長
林 靖人 (信州大学)

2023年度は「ビヨンド・コロナ」をコンセプトに、UDC信州での取組では、「上諏訪駅周辺まちなか未来ビジョン」に深く関わらせていただきました。プライベートでも商店街等へのフィールドワークに何度か赴き、街並みを自らの目で見て、匂いや音、空気を体験しながら、オンライン・ヴァーチャルの使いドコロ、これからのまちづくりを研究する時間になりました。これらアップデートした視点は、2024年度のUDC信州の取組に反映させていきますので、次年度もよろしくお願い申し上げます。



副センター長
三牧 浩也 (東京大学)

思い付きのように決めてしまったUDC全国会議の信州開催。常駐スタッフと地元の方々には相当な負担をおかけしました。私の当日の進行（詳細略）でも、多くの方に気苦労をかけてしまいました。この場を借りて感謝とお詫びを申し上げます。でも、それを補ってあまりある現場力とホスピタリティで、全国から集まったUDCの仲間に、長野の魅力と広域型UDCの可能性は存分にお伝えできたはず。これを成し遂げたUDC信州の現場力とネットワークそのものが、この5年の経験の現れであったと思います。この力を実際のまちに落とし込むフェーズに突き進んでいきましょう。

コーディネーター



宮田 駿介 (長野県/UR都市機構)

UDC信州に来てからあっという間の2年が経ちました。その中でより深い進め方の話をする機会が増えてきたと感じていますし、悩ましいことも多いですが、みんなが地域のことを今まで以上に真剣に考えているからこそだと思います。また、今年は上田市全面協力のもと開催されたUDC全国会議、諏訪湖周辺エリア戦略検討会など、我々としても初めての試みや繋がりも増え、この1年関わったすべてのプロジェクトや関係者の皆さんに感謝いたします！UDC信州が設立され早5年。これら経験を次の5年に繋げていければと思います！引き続きよろしくお願いいたします！

コーディネーター



竹内 利宗 (長野県)

昨年度はしなの鉄道線沿線地域、今年度は諏訪湖や白樺湖周辺といった諏訪地域を主に担当し、2年間で県内の広い地域のまちづくりに携わることができました。3つの活動の1つが市町村のまちづくりを「支える」ですが、特に主導で進める広域プロジェクトでは、市町村や民間の多くの方の協力を得て進めており、UDC信州の活動自体もいろんな人に支えられているとあらためて感じています。そういった方々に少しでも恩返しできるよう、各プロジェクトを進めていきたいと思いますので、引き続きよろしくお願いします。



コーディネーター
小池 勇氣 (長野県)

この1年は県庁とUDC信州を往復する日々で、県庁では、都市計画等の法令に基づくまちづくり、UDC信州では、法令や事業化というよりはその前段にある地域の方々との対話やつながりによるまちづくりのプロセスなど、この2つに携わる1年間でした。UDC信州でのビジョン作成支援、そのビジョンを基に県庁で法定協議等、この2つが繋がる、まちづくり全体の中ではわずかな場面だと思いますが、まちづくりの面白さを感じました！今後も様々な場面・立場でまちづくりに携わっていければと思います！



チーフコーディネーター
唐沢 清雅 (長野県)

市からの派遣で、深くて広い「まちづくり」について勉強させていただき、まちづくりを円滑に進める一番の秘訣は、人との繋がり・対話を大切にすることなんだと気づきました。実際に、長野の魅力や今後のまちの在り方について語りあう皆さんが何より楽しそうで真剣でしだし、多くの想いがぶつかるからこそ、よりよいまちの方針が決まり、それに向かってまちの機運が醸成されていくんだと現場で体感出来ました。この貴重な経験を忘れず、二年目はもっと深い何かを派遣元へ持って帰れるよう励んでいきます！



アドバイザー
新 雄太 (東京大学)

これまで意味付けや、その意図は何か、など解釈ばかりを求めてきました。機能分化されたそれらを再構築する際に意味を与え説明可能なものとして扱い、それが合意形成で大切な手続きだと信じてきたから。むしろ境界は綺麗に分けられずもっとグラデーションで、その振れ幅を受け止める柔軟さや冗長性が求められています。簡単に将来の大事なことなんて決められません。段階的に、暫定的に、たくさん試しながら自分なり／地域なりのわくわくする物差しで、今日より明日の社会をよりよく出来たら。



アドバイザー
山下 裕子 (まちなか広場研究所)

環状線と同じ「環」の形状をしている諏訪湖、そして、鉄道会社はJRだけでも東日本・東海・西日本と3社あり、地元資本のしなの鉄道・長野電鉄・上田電鉄・アルピコ交通を合わせると合計7社ある、長野県。すでにあちらこちらとつながっているし、もっとつながれる可能性に溢れている。活動開始から、みなさまが蒔きつづけた種がふくらみつつある。つながったら「もっと！楽しくなる。ゆたかになる。なにかがうまれる。」という実感が、あちこちで芽生えてきた。実りの秋が、いまから楽しみで仕方がない。

UDC信州

信州地域デザインセンター

8:30～17:15（土・日・祝祭日休）

〒380-0832

長野県長野市東後町16-1 2階

TEL 026-405-4861

MAIL info@udcshinshu.jp

WEB <https://udcshinshu.jp>

Facebook: @udcshinshu Instagram: @udcshinshu

長野駅より徒歩16分

※お車でお越しの際は、近隣のコインパーキング等をご利用ください。



◀公式WEBサイト

